

上峰町文化財調査報告書第47集

# 上峰町内遺跡確認調査 X

上峰町内における開発行為に伴う  
埋蔵文化財確認調査報告書  
—平成29年度—

2019年3月

上峰町教育委員会





# 上峰町内遺跡確認調査 X

上峰町内における開発行為に伴う  
埋蔵文化財確認調査報告書  
—平成29年度—



2019年3月

上峰町教育委員会



## 序

従来、上峰町は「遺跡の宝庫」と言われてきました。北部の脊振山系、その南麓から派生し南北に延びる洪積世丘陵と谷、さらに有明海へと続く沖積平野と変化に富んだ地形を含む町域には、いたるところに先人たちの暮らしの足跡が刻み込まれています。教育委員会では、こうした人々の暮らしの足跡、歴史的資産を保存活用し、将来へ継承していくために、開発と文化財の保護との調整に努めてまいりました。

近世以来の純農村集落の面影を色濃く残してきた上峰町は、昭和40年代後半から「農工併進のまちづくり」を理念に掲げ、工業団地の整備による大規模工場の誘致、農業基盤整備事業の実施とまちづくりを進めてまいりました。町の中央を国道34号線が東西に横断し、ここから、福岡県久留米市へは県道が通るという恵まれた交通環境に位置しており、佐賀市や鳥栖市、久留米市へも最適な通勤圏にあるところから、近年人口も着実に伸び、ベッドタウンとして発展してまいりました。これに伴い、各種商業施設、事業所等の町内進出も相次ぎ、上峰町は平成元年の町制施行以来、この30余年間で近代的な田園都市へと大きく変貌を遂げました。

本書は、上峰町内の埋蔵文化財の保護と開発との調整を図るために上峰町が平成元年度より国庫補助事業の適用を受け実施してまいりました町内遺跡確認調査の報告書であります。この開発に伴う町内遺跡確認調査の実施によって多くの遺跡が破壊、消滅をまぬかれ保護されました。この報告書を学術的な資料として、また今後の埋蔵文化財保護と開発との調整を図るためにの資料として役立てていただければ幸いです。

なお、この町内遺跡確認調査にあたって、ご指導、ご協力をいただきました佐賀県教育委員会、開発事業主体者をはじめ、関係各位に対し深く感謝申し上げます。

平成31年3月

上峰町教育委員会

教育長 野口敏雄

## 例　　言

1. 本書は、平成元年度から国庫補助事業として、上峰町内で実施してきた町内遺跡確認調査のうち平成29年度に実施した町内遺跡確認調査の報告書である。
2. 本書は、平成30年度の国庫補助事業により、上峰町教育委員会が作成、刊行したものである。
3. 町内遺跡確認調査は、上峰町教育委員会が実施した。
4. 現場での発掘作業は、重機により表土剥ぎを行い、調査員の指示により発掘作業員が精査し、遺構・遺物の有無を確認した。
5. 現場での図面、写真による記録作業は、調査員が行った。
6. 遺構などの現場における写真撮影及び出土遺物の写真撮影は、調査員が行った。
7. 調査後の出土遺物、記録類の簡単な整理作業は、当該年度にそれぞれ実施した。
8. 本書中の挿図・写真図版などの作成作業は、調査員の指示により、整理作業員が行った。
9. 本書の執筆・編集は、伊達有彩・原田大介が行った。
10. 本報告書に係る町内遺跡確認調査で出土した全ての遺物及び現場で作成した図面・写真・その他の記録類は、上峰町教育委員会で保管している。

## 凡　　例

1. 「確認調査」・「試掘調査」の用語については、遺跡の範囲内外を基準に「確認調査」・「試掘調査」と区分して取り扱われているが、本書では「確認調査」と統一し表記している。
2. 確認調査番号については、年度ごとに平成をあらわす「H」、年度を表す「数字」、ハイフンの後に一連の番号を付して、調査番号としている。本書中、調査位置図・確認調査一覧表・報文中の調査番号は一致する。

例) 平成29年度に3番目に実施した○○遺跡確認調査 H29-3 ○○遺跡
3. 「調査後の措置」については、本文中の標記は最終結果を記載したが、各年度の一覧表中の標記は当該年度末時点での状況を記載している。
4. 確認調査等の結果を受け、国庫補助事業町内遺跡発掘調査等として実施した埋蔵文化財本調査については、確認調査報告の節の後に、遺跡名と調査区番号を付して報告する。

例) ○○遺跡本調査 ○○遺跡○区発掘調査
5. 本文・挿図中の方位については、全て座標北を基準としている。
6. 表中の数値に付した記号で、( ) は推定値を、※は部分値を表す。
7. 先の市町村合併により、上峰町周辺の町村も合併が進み町村名が変更になっている。本書では、必要に応じて現在の市町名のあとに ( ) で旧市町村名も併記している。

## 調査組織

平成 29 年度

調査主体 上峰町教育委員会

調査事務局 総括 時津昌昭 上峰町教育委員会 教育長職務代理者

事務主任 中島洋 〃 文化課長

経費執行 原田大介 〃 文化課主幹

〃 伊達有彩 〃 文化課文化係

調査組織 調査員 原田大介 〃 文化課主幹

伊達有彩 〃 文化課文化係

調査指導 佐賀県教育委員会

## 発掘作業参加者

平成 29 年度

大庭始、岡村秀俊、古賀繁夫、白土喬、杉谷勇、杉谷嘉泰、田中一馬、堤脩次郎、

濱富助、宮崎正秋、牟田康孝、矢勤丸、松美、山田富士夫

江崎愛子、島美保子

## 整理作業参加者

江崎愛子、島美保子（平成 30 年度 整理作業員）

# 目 次

序	
例言・凡例	
調査組織・発掘作業参加者・整理作業参加者	
I. 上峰町の位置と環境	1
1. 上峰町の位置	1
2. 歴史的環境	1
II. 調査の概要	6
1. 調査に至る経緯	6
2. 調査の方法	6
III. 平成 29 年度の確認調査	9
H29-1 船石一本杉遺跡	13
H29-2 坊所五本谷遺跡(1)	14
H29-3 三上遺跡	14
H29-4 周知外鳥越地区	15
H29-5 坊所一本谷遺跡	15
H29-6 周知外上米多地区(1)	16
H29-7 坊所五本谷遺跡(2)	16
H29-8 周知外上米多地区(2)	17
H29-9 切通遺跡	17
H29-10 杉寺遺跡	18
H29-11 周知外井手口地区(1)	18
H29-12 周知外下津毛地区(1)	19
H29-13 坊所五本谷遺跡(3)	19
H29-14 周知外井手口地区(2)	20
H29-15 寺家遺跡	20
H29-16 坊所五本谷遺跡(4)	21
H29-17 米多城跡	22
H29-18 楠寺遺跡	22
H29-19 周知外下津毛地区(2)	23
H29-20 周知外下米多地区	24
IV. 平成 29 年度の本調査	25
樫寺遺跡 7 区～12 区発掘調査	28
1. 遺跡の概要	28
2. 調査区と調査の概要	28

3. 遺構	33
(1) 壴穴式住居址	33
(2) 土壙	37
(3) 溝跡	44
(4) 瓢棺墓	44
4. 遺物	48
5.まとめ	60

## 挿図目次

Fig. 1 上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)	2
2 上峰町遺跡地図 (1/50,000)	7
3 平成 29 年度 確認調査地図 (1/50,000)	12
4 H29-1 船石一本杉遺跡 (1/5,000)	13
5 H29-1 トレンチ設定図 (1/1,000)	13
6 H29-1 トレンチ略図 (1/200)	13
7 H29-2 坊所五本谷遺跡(1) (1/5,000)	14
8 H29-3 三上遺跡 (1/5,000)	14
9 H29-4 周知外鳥越地区 (1/5,000)	15
10 H29-5 坊所一本谷遺跡 (1/5,000)	15
11 H29-6 周知外上米多地区(1) (1/5,000)	16
12 H29-7 坊所五本谷遺跡(2) (1/5,000)	16
13 H29-8 周知外上米多地区(2) (1/5,000)	17
14 H29-9 切通遺跡 (1/5,000)	17
15 H29-10 杉寺遺跡 (1/5,000)	18
16 H29-11 周知外井手口地区(1) (1/5,000)	18
17 H29-12 周知外下津毛地区(1) (1/5,000)	19
18 H29-13 坊所五本谷遺跡(3) (1/5,000)	19
19 H29-14 周知外井手口地区(2) (1/5,000)	20
20 H29-15 寺家遺跡 (1/5,000)	20
21 H29-15 トレンチ設定図 (1/1,000)	20
22 H29-15 トレンチ略図(1/200)	21
23 H29-16 坊所五本谷遺跡(4) (1/5,000)	21
24 H29-17 米多城跡 (1/5,000)	22
25 H29-18 墓寺遺跡 (1/5,000)	22
26 H29-18 トレンチ設定図 (1/1,000)	22
27 H29-18 トレンチ略図(1/200)	23
28 H29-19 周知外下津毛地区(2) (1/5,000)	23
29 H29-20 周知外下米多地区 (1/5,000)	24

30	平成 29 年度 本調査地位置図 (1/50,000) .....	27
31	桜寺遺跡周辺地形図及び調査区位置図 (1/5,000) .....	29
32	桜寺遺跡 7 区～12 区 調査区配置図 (1/500) .....	30
33	桜寺遺跡 7 区～12 区 遺構配置図(1) (1/200) .....	31
34	桜寺遺跡 7 区～12 区 遺構配置図(2) (1/200) .....	32
35	桜寺遺跡 7 区～12 区 壊穴式住居址実測図(1) (1/80) SH-801・SH-802・SH-804・SH-805・ SH-901・SH-902 .....	34
36	桜寺遺跡 7 区～12 区 壊穴式住居址実測図(2) (1/80) SH-1001～SH-1005・SH-1101・ SH-1102 .....	35
37	桜寺遺跡 7 区～12 区 壊穴式住居址実測図(3) (1/80) SH-1103～SH-1105 .....	36
38	桜寺遺跡 7 区～12 区 土壇実測図(1) (1/60) SK-700～SK713・SK-806・SK-808 .....	39
39	桜寺遺跡 7 区～12 区 土壇実測図(2) (1/60) SK-809～SK814・SK-903～SK-910 .....	40
40	桜寺遺跡 7 区～12 区 土壇実測図(3) (1/60) SK-1006～SK-1020 .....	41
41	桜寺遺跡 7 区～12 区 土壇実測図(4) (1/60) SK-1021～SK-1024・SK-1106～SK1114 .....	42
42	桜寺遺跡 7 区～12 区 土壇実測図(5) (1/60) SK-1115～SK-1117・SK-1201～SK1211 .....	43
43	桜寺遺跡 7 区～12 区 溝跡実測図(1) (1/80) SD-714～SD716 .....	45
44	桜寺遺跡 7 区～12 区 溝跡実測図(2) (1/80) SD-805・SD-913・SD-1025・SD-1212・ SD-1213 .....	46
45	桜寺遺跡 7 区～12 区 銀棺墓 (1/20)・その他の遺構 (1/60) 実測図 SJ-912・SX-911・ SX-1118 .....	47
46	桜寺遺跡 7 区～12 区 出土遺物実測図(1) (1/4) .....	50
47	桜寺遺跡 7 区～12 区 出土遺物実測図(2) (1/4) .....	51
48	桜寺遺跡 7 区～12 区 出土遺物実測図(3) (1/4) .....	52
49	桜寺遺跡 7 区～12 区 出土遺物実測図(4) (1/4) .....	53
50	桜寺遺跡 7 区～12 区 出土遺物実測図(5) (1/4) .....	54
51	桜寺遺跡 7 区～12 区 出土遺物実測図(6) (1/4) .....	55
52	桜寺遺跡 7 区～12 区 出土遺物実測図(7) (1/4) .....	56
53	桜寺遺跡 7 区～12 区 出土遺物実測図(8) (1/4) .....	57
54	桜寺遺跡 7 区～12 区 出土遺物実測図(9) (1/4) .....	58
55	桜寺遺跡 7 区～12 区 出土遺物実測図(10) (1/4) .....	59

## 表 目 次

Tab. 1	平成 29 年度 町内遺跡確認調査一覧表 .....	10・11
2	平成 29 年度 町内遺跡本調査一覧表 .....	26
3	桜寺遺跡 7 区～12 区 出土壊穴式住居址一覧表 .....	33
4	桜寺遺跡 7 区～12 区 出土土壇一覧表 .....	37・38
5	桜寺遺跡 7 区～12 区 出土石製品一覧表 .....	49
	報告書抄録 .....	

## 図版目次

PL.	1	H29-1	船石一本杉遺跡	No.3 試掘溝	13
2	H29-1	船石一本杉遺跡	No.3 試掘溝断面	13	
3	H29-2	坊所五本谷遺跡(1)		14	
4	H29-3	三上遺跡		14	
5	H29-4	周知外鳥越地区		15	
6	H29-5	坊所一本谷遺跡		15	
7	H29-6	周知外上米多地区(1)		16	
8	H29-7	坊所五本谷遺跡(2)		16	
9	H29-8	周知外上米多地区(2)		17	
10	H29-9	切通遺跡		17	
11	H29-10	杉寺遺跡		18	
12	H29-11	周知外井手口地区(1)		18	
13	H29-12	周知外下津毛地区(1)		19	
14	H29-13	坊所五本谷遺跡(3)		19	
15	H29-14	周知外井手口地区(2)		20	
16	H29-15	寺家遺跡 調査地全景		21	
17	H29-15	寺家遺跡 No.1 試掘溝遺構検出状況		21	
18	H29-16	坊所五本谷遺跡(4)		21	
19	H29-17	米多城跡		22	
20	H29-18	樺寺遺跡 調査地全景		23	
21	H29-18	樺寺遺跡 No.5 試掘溝遺構検出状況		23	
22	H29-19	周知外下津毛地区(2)		23	
23	H29-20	周知外下米多地区		24	
		卷末図版			
24		樺寺遺跡 7区～12区 調査地区全景			
25		樺寺遺跡 7区 遺構(1)			
26		樺寺遺跡 7区 遺構(2)			
27		樺寺遺跡 7区 遺構(3)			
28		樺寺遺跡 8区 遺構(1)			
29		樺寺遺跡 8区 遺構(2)			
30		樺寺遺跡 8区 遺構(3)			
31		樺寺遺跡 8区 遺構(4)			
32		樺寺遺跡 9区 遺構(1)			
33		樺寺遺跡 9区 遺構(2)			
34		樺寺遺跡 9区 遺構(3)			
35		樺寺遺跡 10区 遺構(1)			

- 36 楠寺遺跡 10 区 遺構(2)
- 37 楠寺遺跡 10 区 遺構(3)
- 38 楠寺遺跡 10 区 遺構(4)
- 39 楠寺遺跡 10 区 遺構(5)
- 40 楠寺遺跡 11 区 遺構(1)
- 41 楠寺遺跡 11 区 遺構(2)
- 42 楠寺遺跡 11 区 遺構(3)
- 43 楠寺遺跡 11 区 遺構(4)
- 44 楠寺遺跡 12 区 遺構(1)
- 45 楠寺遺跡 12 区 遺構(2)
- 46 楠寺遺跡 7 区～12 区 遺物(1)
- 47 楠寺遺跡 7 区～12 区 遺物(2)
- 48 楠寺遺跡 7 区～12 区 遺物(3)
- 49 楠寺遺跡 7 区～12 区 遺物(4)
- 50 楠寺遺跡 7 区～12 区 遺物(5)
- 51 楠寺遺跡 7 区～12 区 遺物(6)
- 52 楠寺遺跡 7 区～12 区 遺物(7)
- 53 楠寺遺跡 7 区～12 区 遺物(8)
- 54 楠寺遺跡 7 区～12 区 遺物(9)

# I. 上峰町の位置と環境

## 1. 上峰町の位置 (Fig. 1)

佐賀県三養基郡上峰町は、佐賀県東部の穀倉地帯である佐賀平野のほぼ中央、三養基郡の西端に位置しており、東部は同郡みやき町（旧中原町・旧北茂安町）と、南部は同郡みやき町（旧三根町）と、西部は神埼郡吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）と境を接している。また、この神埼郡との境界は、古代以来の三根郡との郡界を踏襲しており、現在も町のほぼ中央を東西に横断する国道34号線付近の旧三田川町と境を接する地域は郡境地区と呼称されている。

鳥栖市から佐賀市大和町（旧佐賀郡大和町）に至る佐賀県東部には、北部に背振山地、その南麓に発達する更新世丘陵、さらに南部には有明海へと続く沖積平野が展開するという、変化に富んだ地形が発達している。なかでも、山麓部から沖積平野部へ移行する部分に発達する更新世丘陵は、山麓部に源を発し有明海へと南流する大小の河川によって浸食され北から南へ延びる舌状を呈した段丘を数多く形成している。そして、これらの段丘は古くから人々の生活の場として利用され、段丘上には数多くの遺跡が分布し、遺跡数、内容とともに県内でも有数の地域となっている。

そのようななか、南北に細長い町域をもつ上峰町においても、北部に山麓部、中央部に更新世丘陵部、南部に沖積平野部と、この佐賀県東部の特徴的な地形が展開しており、とくに中央部に発達する更新世丘陵地域を中心に遺跡の分布が知られ、古くから「遺跡の宝庫」と呼ばれてきた。

## 2. 歴史的環境 (Fig. 1)

上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観すると、前述のとおり、山麓部から更新世丘陵部におよぶ一帯が古くから人々の生活の舞台となっており、山麓部及び各段丘上には、現在、遺跡の存在が知られ、県内においてもとくに弥生時代遺跡を中心に遺跡の分布密度が高い地域となっている。沖積地を望む丘陵部のほとんどが、各時代の集落あるいは墓域として占有され、とりわけ、弥生時代以降の遺跡を繩文時代以前の遺跡と比較すると、量的にも、質的にも爆発的に増加、充実する。銅鐸の鋳型を出土した鳥栖市安永田遺跡<sup>1</sup>、約400基の壺棺墓が検出されたみやき町（旧中原町）姫方遺跡<sup>2</sup>、埋納された12本の銅矛を出土したみやき町（旧北茂安町）横見谷遺跡<sup>3</sup>、堀柵墓から舶載鏡を出土した吉野ヶ里町（旧東脊振村）三津永田遺跡<sup>4</sup>、近年の工業団地建設に先立つ調査で貴重な遺構、遺物が検出された神埼市（旧神埼町）・吉野ヶ里町（旧三田川町・旧東脊振村）に跨る吉野ヶ里遺跡<sup>5</sup>など多くの著名な集落遺跡、墳墓群が知られ弥生時代の「クニ」あるいは「ムラ」単位の集団の存在が想定されるに至っている。このようななか、南北約12km、東西約3kmと南北に細長い町域を持つ本町においても同様に、町の北部から中央部を占める更新世段丘上に弥生時代を中心に各時代の遺跡が分布している。

先土器時代の遺跡についてみると、各段丘で層序が異なる本地域においては本格的な調査がなされていないのが現状で、断片的な遺物の出土、採取にとどまっている。町内では、平成4年度の県営農業基盤整備事業に伴う八幡遺跡の調査において縄石刃1点とこの時期のものと考えられる石器類が少量出土しているが、これが発掘調査における主な出土例である<sup>6</sup>。周辺地域では、吉野ヶ里町（旧三田川町）との境界に位置する二塚山丘陵の吉野ヶ里町（旧三田川町）側からナイフ形石器の採取例が報告されている<sup>7</sup>。また、平成5年度の県営農業基盤整備事業に伴う八幡遺跡下層における阿蘇4火碎流跡と埋没林に係る調査において、先土器時代の年代示標となっている姶良-Tn火山灰（AT）の含有ピークが、通常の丘陵上の埋蔵文化財調査において遺構検出面としている「地山」



上峰町	12	坂下本谷遺跡	24	坊所坂跡	36	山田轟古器出土地	47	西岸水道跡	58	御神角有
1 奥の院古墳群	13	尾二里塚	25	柳今塚跡	37	山田古墳群	48	宝池谷遺跡	56	吉良屋六本松遺跡
2 磨西山山城	14	八藤遺跡	26	柳寺遺跡	38	大畠古墳	49	宝池吉良方底凹塚	57	伊勢保前方後円墳
3 二本柳古墳群	15	二本柳山遺跡	27	坊所二本柳遺跡	39	八幡社遺跡	50	大塚古墳	58	鬼怒遺跡
4 猿西山南戴古墳群	16	五牛谷遺跡	28	坊所三本柳遺跡	40	御林遺跡	51	東原御林出土遺跡	59	青石動古墳群
5 堀三本松遺跡	17	船石遺跡	29	船の廻船跡	41	船方遺跡	52	日三櫛町	60	青石動古墳群
6 鹿形原古墳群	18	船石西遺跡	30	西前半船跡	42	船方遺跡	53	日三櫛町	61	青石動古墳群
7 容護古墳群	19	切石遺跡	31	米多城跡	43	船方南方底凹塚	52	本分貝冢	62	三津水道遺跡
8 堀三本松遺跡	20	一本谷遺跡	32	前半田船跡	45	近方斯跡	54	旧三田川町	63	青石動遺跡
9 曾根古墳群	21	坊南一木谷遺跡	33	加茂層集落跡	44	シンドン落遺跡	55	吉野一里丘隕遺跡跡	64	松原遺跡
10 新立古墳群	22	上のびうら野古墳	34	江迎城跡	45	町南遺跡	54	下中村遺跡	65	草上延寺跡
11 鹿形原古墳群	23	日進原古墳群	35	一ノ倅農業系落跡	46	天神遺跡	55	下藤貝塚	66	横田遺跡

Fig. 1 上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡 (1/50,000)

の表層を構成する黄褐色風積土層の最上部付近、アカホヤ含有層のやや下部にて検出されている<sup>9)</sup>。

調文時代になると、みやき町（旧中原町）香田遺跡<sup>9)</sup>や吉野ヶ里町（旧東脊振村）戦場ヶ谷遺跡<sup>10)</sup>などが出現する。町内においても、これまでも町北部の丘陵部から土器や石器が、耕作や先覚者の遺跡の表面観察などによって断片的に出土、採取されていたが、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う発掘調査の結果、平成元年度の船石遺跡11区<sup>11)</sup>、平成2年度から5年度にわたり実施した八藤丘陵の調査<sup>12)</sup>において、遺構や遺物がまとまって検出されており、今後の調査例の増加が期待されている。

弥生時代になると、遺跡の数や規模、その内容が飛躍的に増加、充実することは先に触れたが、早くから『魏志倭人伝』の「赤奴国」の所在地を佐賀平野東部、なかでも三養基郡西部の旧三根郡にあてる論考が行われてきたことは周知のことである。旧三根郡に所属する上峰町においても、丘陵部のほとんどにこの時期の遺跡が展開している。しかし、町の南部や中央部の米多地区、坊所地区の丘陵部は、中世以降集落として発達し、早くから宅地化が進み、本格的な発掘調査の例に乏しく、わずかに再開発に伴い部分的に小規模の発掘調査が行われているに過ぎず、遺跡の詳細について把握できていないのが現状である。これに対して、町北部の大字堤地区では、近年の工業団地建設や農業基盤整備事業など大型開発に伴い広範囲かつ大規模な発掘調査が実施され、各遺跡から当時の社会の様子を知るうえで貴重な資料が得られている。町内の代表的な遺跡としては、堀留墓から細形銅劍や貝鏡を出土した切通遺跡<sup>13)</sup>、吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）に跨る、佐賀県東部中核工業団地の建設に伴い堀留墓、土壙墓など約300基が調査され、船載鏡、小型敏製鏡をはじめとする貴重な副葬品を出土した二原山遺跡<sup>14)</sup>、佐賀県住宅供給公社の宅地造成に伴う調査で一集団の集落部分の全容が明らかになった一本谷遺跡<sup>15)</sup>、地区運動公園整備に伴う調査で5世紀代の古墳とともに支石墓はじめ多数の堀留墓が検出された船石遺跡<sup>16)</sup>などが知られている。また、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う調査においても、船石遺跡<sup>17)</sup>、船石南遺跡<sup>18)</sup>、八藤遺跡<sup>19)</sup>から住居址や堀留墓などが多数検出されている。

古墳時代になると、この地域にも首長墓が出現する。初頭の時期にはみやき町（旧中原町）姫方原遺跡<sup>20)</sup>、上峰町五本谷遺跡<sup>21)</sup>などにおいて方形周溝墓が営まれ、やがて中期にかけて鳥栖市から佐賀市大和町に至る山麓や丘陵部に大型の前方後円墳が出現する。鳥栖市劍塚古墳<sup>22)</sup>、みやき町（旧中原町）姫方古墳<sup>23)</sup>、上峰町西南部から吉野ヶ里町（旧三田川町）に跨る目達原古墳群<sup>24)</sup>、神埼市（旧神埼町）伊勢塚古墳<sup>25)</sup>、佐賀市桃子塚古墳<sup>26)</sup>、佐賀市大和町船塚古墳<sup>27)</sup>など佐賀県東部の代表的な古墳が築かれるようになる。さらに後期になると、現在長崎自動車道や県道佐賀川久保・鳥栖線が通る山麓部から丘陵部に跨る一帯に小円墳を中心とした古墳が多数築かれ、それぞれが山麓部の尾根や谷あるいは丘陵を単位として後期古墳群を形成している。

後の『肥前風土記』にみえる三根郡米多郷に属する当時の上峰町一帯は、『古事記』、『国造本紀』などの記事によれば応神天皇の曾孫にあたる「都紀女加」なる人物が初代の米多國造として中央より下向した地域に比定され、その中心は、町南西部の米多地区から吉野ヶ里町（旧三田川町）東部の目達原一帯にあったと推定されている。町内の主要な古墳としては、都紀女加を始祖とする米多國造一族の墳墓として、5世紀代後半に形成されたと考えられる上のびゅう塚（現在、陵墓「都紀女加王墓」宮内庁管轄）はじめ無名塚、大塚、古稀荷塚、稀荷塚などの前方後円墳ほかからなる目達原古墳群<sup>28)</sup>が知られていたが、戦前の陸軍飛行場建設の際に、唯一上のびゅう塚を残し他の古墳は簡単な発掘調査の後破壊されている。また町の北部の古墳としては、同じく5世紀代の古墳で、蛇行状鉄劍、蛇行状鉄矛を出土した船石天神宮境内の船石古墳1～3号墳<sup>29)</sup>が知られている。古墳時代後期の古墳としては、町北部の鎮西山の周辺山麓部から高位段丘上にかけて、小円墳を主体とする谷渡、青柳、新立、奥の院、鎮西山南麓、屋形原などの古墳群が点在している。

一方、この時期の集落は、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中村遺跡<sup>30)</sup>、吉野ヶ里町（旧東脊振村）下石動遺跡<sup>31)</sup>などが知られているが、弥生時代集落に比べ、遺跡そのものの数も少なく、調査例も少なくて今まで実態が明らかになっていないのが現状である。町内の遺跡をみても、当時の政治的中心であったと考えられる町南部の米多地区周辺における本格的な発掘調査の例がなく、今後の大きな課題といえる。

奈良・平安時代遺跡としては、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中村遺跡、吉野ヶ里町（旧東脊振村）辛上庵寺跡<sup>32)</sup>、靈仙寺跡<sup>33)</sup>などが著名であるが、この時期の遺跡についてもまとまった調査例が少なく、実態はあまり解明されていない。当時の構造として大規模なものは、佐賀平野に敷かれた条里制の構造が上げられ、早くから地名などから条里の復元が試みられ、現在ではほとんどの条里が復元されている。また、大宰府から肥前国府へ通じる官道の調査も進み、近年部分的な発掘調査が行われている。

町内では堤土塁跡<sup>34)</sup>や塔の庵庭寺跡<sup>35)</sup>などが奈良時代の遺跡として戦前から注目されている。町北部の堤地区の八藤丘陵と二塚山丘陵の間の谷底平野を遮断する形で築かれた堤土塁跡は、版築工法により築かれた福岡県の水城に似た施設、「小水城」で、その築造目的が、大宰府の防衛施設であるとする説、灌漑用水確保のための溜池の堤防であるとする説など議論がなされてきたが、平成2年度からの土星の東方に接する八藤丘陵の調査において、土星東端から一直線に八藤丘陵を東方へ横断する道路側溝状の構造が検出され<sup>36)</sup>、その性格付けにあらたに古代道の存在が想定されることとなった。また町南西部を占める目達原丘陵の南端部に位置する塔の庵庭寺跡は、百濟系単弁軒丸瓦が発見され、戦前までは基壇、礎石の存在が知られていた奈良時代中期の寺院址で、目達原古墳群を営んだ米多国造一族の流れをくむ三根郡の郡司層が建立したものと推定されている。また、町内における奈良・平安時代の集落は、農業基盤整備事業に伴う調査や近年の大規模小売店舗建設に先立つ坊所一本谷遺跡<sup>37)</sup>の調査などでまとまった調査がなされたのみで、今後の調査例の増加が期待される。

中世になると、北部の山麓部の小峰に山城が築かれ、沖積平野部には環濠を伴う平城や集落が出現する。町内の中世城跡としては、北部の傾西山山城、上峰町中央部の平野を臨む丘陵部に坊所城跡、町南部の平野部には米多城跡、前半田城跡、江迎城跡、一の橋環濠集落、加茂環濠集落などが知られていた<sup>38)</sup>。しかし、昭和40年代後半からの圃場整備事業によって、これら平野部の遺構は、原状がほとんど失われてしまった。そのようななかで、町の親水公園として整備された江迎城跡では13世紀後半代の龍泉窯系の青磁碗が建物跡とともに出土し、また、坊所城跡では16世紀後半代の青花がそれぞれ出土している<sup>39)</sup>。

以上、上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観したが、まさにこの地域は遺跡の密度、その内容ともに高く、遺跡の宝庫と呼ぶにふさわしい地域といえる。

## 註

- 1) 藤原樹博・石橋新次『袖北遺跡群範囲認証調査第3年次概要報告書』鳥栖市文化財調査報告書第30集鳥栖市教育委員会 1980
- 2) 木下巧・天本洋一『経方遺跡』佐賀県文化財調査報告書第30集 佐賀県教育委員会 1974
- 3) 七田忠昭『猿谷遺跡』北佐安町文化財調査報告書第2集 北佐安町教育委員会 1986
- 4) 金門丈夫・坪井清足・金門智『佐賀県三津永田遺跡』『日本農耕文化の生成』日本考古学協会 1961
- 5) 七田忠昭他『吉野ヶ里』佐賀県文化財調査報告書第113集 佐賀県教育委員会 1992
- 6) 原田大介『八藤遺跡III』上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 7) 七田忠志『原紹』『上峰村史』上峰村 1979
- 8) 下山正一・西田民雄『II. 佐賀県上峰町周辺の地形と地質』『佐賀平野の阿蘇4火葬場と埋没林』上峰町文化財調査報告書第11集 上峰町教育委員会 1994
- 9) 高瀬哲郎・堤安信・久保伸洋『香田遺跡』『香田遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書2 佐賀県文化

- 財調査報告書第57集 佐賀県教育委員会 1981
- 10) 七田忠志 「佐賀県鞍場ヶ谷遺跡」『史前学雑誌』 6-2・4 1934
- 11) 原田大介 『船石遺跡V』 上峰町文化財調査報告書第12集 上峰町教育委員会 1995
- 12) 原田大介 『八幡遺跡II・堤土里跡II』 上峰町文化財調査報告書第14集 上峰町教育委員会 1998  
前出(6)
- 13) 金間丈夫・金間慈・原口正三 「佐賀県切通遺跡」『日本農耕文化の生成』 日本考古学協会 1961
- 14) 高島忠平・七田忠昭他 「二塚山遺跡」『二塚山』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 15) 七田忠昭 『一本谷遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 16) 七田忠昭 『船石遺跡』 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1983
- 17) 鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡II 回缺編』 上峰村文化財調査報告書第6集 上峰村教育委員会 1988  
鶴田浩二・原田大介 『船石遺跡II 本文編』 上峰村文化財調査報告書第7集 上峰村教育委員会 1989
- 原田大介 『船石遺跡III』 上峰町文化財調査報告書第8集 上峰町教育委員会 1990
- 原田大介 『船石遺跡IV』 上峰町文化財調査報告書第9集 上峰町教育委員会 1991
- 18) 原田大介 『船石南遺跡I』 上峰町文化財調査報告書第21集 上峰町教育委員会 2002
- 原田大介 『船石南遺跡II』 上峰町文化財調査報告書第22集 上峰町教育委員会 2002
- 19) 原田大介 『八幡遺跡I』 上峰町文化財調査報告書第13集 上峰町教育委員会 1997
- 20) 木下巧他 『郷原方原遺跡』 佐賀県文化財調査報告書第33集 佐賀県教育委員会 1976
- 21) 木下巧・七田忠昭 「五本谷遺跡」『二塚山』 佐賀県文化財調査報告書第46集 佐賀県教育委員会 1979
- 22) 石橋新次 『劍塚前方後円墳』 島原市文化財調査報告書第22集 島原市教育委員会 1984
- 23) 前出(2)
- 24) 松尾耕作 「日蓮原古墳群調査報告」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第9輯 佐賀県教育委員会 1950
- 25) 木下之治 「古代国家の形成」『佐賀県史』佐賀県 1968
- 26) 木下之治編 『鏡子塚』 佐賀市教育委員会 1976
- 27) 松尾耕作 「佐賀県考古大観」 祐徳博物館 1959
- 28) 前出(24)
- 29) 前出(16)
- 30) 七田忠昭・高山久美子・西田和己 「下中枕遺跡」 佐賀県文化財調査報告書第64集 佐賀県教育委員会 1980
- 31) 高瀬哲郎他 「下石動遺跡」「下石動遺跡」 九州横断自動車道開保埋蔵文化財発掘調査報告書(6) 佐賀県文化財調査報告書第86集 佐賀県教育委員会 1987
- 32) 松尾耕作 「東脊振村辛上魔寺跡の調査」 『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第6輯 佐賀県 1936
- 33) 田平徳栄他 「靈仙寺跡」 東脊振村文化財調査報告書第4集 東脊振村教育委員会 1980
- 34) 高島忠平・樋一義 「堤土里跡」 上峰村文化財調査報告書 上峰村教育委員会 1978
- 35) 松尾耕作 「塔の塙廢寺址」 『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』 第7輯 佐賀県 1940
- 36) 前出(12)  
原田大介 『八幡遺跡III』 上峰町文化財調査報告書第16集 上峰町教育委員会 1999
- 37) 平成5、6年度、上峰町教育委員会調査、整理中
- 38) 米倉二郎 「中世」『上峰村史』 上峰村 1979
- 39) 原田大介 『坊所城跡』 上峰町文化財調査報告書第10集 上峰町教育委員会 1992

## II. 調査の概要

### 1. 調査に至る経緯

上峰町教育委員会では、平成元年度より、国庫補助事業の適用を受け、埋蔵文化財保護と開発との調整を図るために開発行為に伴い町内遺跡について事前の確認調査を実施してきた。民間あるいは公共機関等が主体となって実施される町内における各種開発行為について事前に協議を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地の内外にかかわらず、これまでに埋蔵文化財発掘調査歴がない土地については、開発面積や工法等の制約がない限り、開発主体者等に事前の確認調査の実施にむけた協力を要請している。

### 2. 調査の方法

確認調査の方法は、開発予定地に面積的、地形的な制約がない場合、原則として $10m \times 3m$ の試掘溝により地下の遺構・遺物の有無を確認することとしている。図上で開発予定範囲全体に $10m$ のメッシュを組み、このメッシュに $10m \times 3m$ の試掘溝を一マスおきに市松模様状に設定し、試掘溝の配置計画を作成している。この試掘溝配置計画をもとに現地で試掘溝を設定し、確認調査を実施している。

また、開発面積に対する試掘面積の割合は、事前に図上で試掘溝を設定する時点ではおおむね開発面積の10%を目途としているものの、実際の調査では現地の種々の制約により、試掘溝の規模、配置等は臨機応変な対応を探ることも多く、試掘面積を縮小せざるを得ない場合も少なくはない。

各試掘溝の掘削については、遺構検出面までの掘削には可能な限り重機を使用しているが、重機が使用できない場合、包含層や遺構の掘り下げなどそれ以上の精査が必要な場合などは作業員の人力により掘削を行っている。

試掘の結果、遺構などが検出された試掘溝については、適宜、遺構配置等の略測を行い、縮尺1/100程度の平面図、縮尺1/20程度の土層断面図を作成し、フィルムカメラ・デジタルカメラによる写真撮影を行い記録としている。作業終了後は、原則として試掘溝は埋め戻しを行い原状への復旧を図っている。

また、確認調査の結果、開発予定地内から遺構や遺物が検出された場合で、かつ、調査原因が個人専用住宅の建設、個人による自己所有農地の改良など、遺跡の記録保存等に係る経費について、これを開発主体者に求めることが困難であると認められる場合は、本補助事業の予算の範囲内において、検出された地下の埋蔵文化財に工事の影響が及ぶ範囲について記録保存を目的とした必要最小限の本調査を実施することとしている。

# 上峰町全図

番号	地名	番号	地名
1	森の里公園	36	大字北郷
2	桃山西山（とうざいさん）跡地	37	桃山西山遺跡
3	桃山西山遺跡遺構	38	桃山西山遺跡
4	桃山西山遺跡遺構（A）	39	桃山西山遺跡
5	桃山西山遺跡遺構（B）	40	桃山西山遺跡
6	桃山西山遺跡	41	桃山西山遺跡
7	桃山西山遺跡	42	桃山西山遺跡
8	桃山西山遺跡	43	桃山西山遺跡
9	桃山西山遺跡	44	桃山西山遺跡
10	二本木古墳群	45	桃山西山遺跡
11	山裏遺跡	46	桃山西山遺跡
12	山裏遺跡	47	桃山西山遺跡
13	桃山西山遺跡	48	桃山西山遺跡
14	桃山西山遺跡	49	桃山西山遺跡
15	桃山西山遺跡	50	桃山西山遺跡
16	桃山西山遺跡	51	桃山西山遺跡
17	桃山西山遺跡	52	桃山西山遺跡
18	桃山西山遺跡	53	桃山西山遺跡
19	桃山西山遺跡	54	桃山西山遺跡
20	桃山西山遺跡	55	桃山西山遺跡
21	桃山西山遺跡	56	桃山西山遺跡
22	桃山西山遺跡	57	桃山西山遺跡
23	桃山西山遺跡	58	桃山西山遺跡
24	八郎塚古墳	59	桃山西山遺跡
25	桃山西山遺跡	60	桃山西山遺跡
26	桃山西山遺跡	61	桃山西山遺跡
27	桃山西山遺跡	62	桃山西山遺跡
28	桃山西山遺跡	63	桃山西山遺跡
29	桃山西山遺跡	64	桃山西山遺跡
30	桃山西山遺跡	65	桃山西山遺跡
31	桃山西山遺跡	66	桃山西山遺跡
32	桃山西山遺跡	67	桃山西山遺跡
33	桃山西山遺跡	68	桃山西山遺跡
34	桃山西山遺跡	69	桃山西山遺跡



Fig. 2 上峰町遺跡地図 (1/50,000)



### III. 平成29年度の確認調査

Tab.1 平成29年度 町内遺跡確認調査一覧表

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m <sup>2</sup> )	調査面積(cm)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
1	船石一本杉遺跡	上峰町大字堤字一本杉 28番5の一部	株式会社 三進物流	事務所建設工事	406	13	平成29年5月15日 平成29年6月8日	ピット、土壌、構築、 住居址等が検出され た。遺物包含層から 赤生土器片を多数検 出した。	工事実施	
2	坊所五本谷遺跡(1)	上峰町大字坊所字五本谷 1838番3	個人	個人住宅建設工事	330	17	平成29年5月25日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施	
3	三上遺跡	上峰町大字坊所字三上 3270番5	個人	個人住宅建設工事	415	25	平成29年5月25日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施	
4	周知外鳥越地区	上峰町大字堤字三本黒木 4544番2、4549番2 4551番1、4546番 4549番1、4562番2 上峰町大字堤字二本黒木 4327番、4328番 4329番1	株式会社西日本トラスト	資材置き場造成工事	3,531	136	平成29年6月5日 平成29年6月6日	遺構・遺物は検出さ れなかった。		
5	坊所一本谷遺跡	上峰町大字坊所字二本谷 2511番8 2511番7 2511番11 2511番12	個人	個人住宅建設工事	523	5	平成29年6月28日	遺構・遺物は検出さ れなかった。		
6	周知外上米多地区(1)	上峰町大字堤字上米多 1916番1 1916番2	株式会社 東伸不動産	分譲宅地造成工事	4,569	110	平成29年7月14日 平成29年7月18日 平成29年7月19日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施	
7	坊所五本谷遺跡(2)	上峰町大字坊所字五本谷 2090番7	個人	個人住宅建設工事	262	13	平成29年8月30日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施	
8	周知外上米多地区(2)	上峰町大字前牟田字五本杉 1559番地1 1559番地4	個人	資材置き場造成工事	1,421	60	平成29年8月30日 平成29年8月31日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施	
9	切池遺跡	上峰町大字堤字西本谷 1903番196	株式会社アーネストワント	建売住宅建設工事	249	20	平成29年9月8日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施	
10	杉寺遺跡	上峰町大字坊所字西峰 2713番1 1376番1	個人	共同住宅建設工事	773	52	平成29年9月20日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施	
11	周知外井手口地(1)	上峰町大字坊所字三本谷 2317番地、2317番地2 2317番地3、2317番地4 2317番地5、2317番地6 2317番地7、2317番地9 2324番地1、2324番地2 2324番地3、2325番地1 2326番地3	有限会社シングラント・スポーツ	店舗建設工事 駐車場造成工事	5,408	130	平成29年10月30日 平成29年10月31日	遺構・遺物は検出さ れなかった。	工事実施	

No	遺跡名	所在地	原因者	事業内容	工事面積(m <sup>2</sup> )	調査面積(m <sup>2</sup> )	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備考
12	周知外下津毛地区(1)	上峰町大字坊所字下津毛 241番 238番	株式会社G-stage	分譲住宅造成工事	2,935	80	平成29年11月19日 平成29年11月10日	遺構・遺物は検出されなかつた。	工事実施	
13	坊所五本谷遺跡(3)	上峰町大字坊所字五本谷 1864番3	個人	個人住宅建設工事	451	48	平成29年11月14日	遺構・遺物は検出されなかつた。	工事実施	
14	周知外井手口港(2)	上峰町大字坊所字井手口 2301番1, 2301番2 2301番3, 2303番 2304番, 2305番1 2305番2, 2305番3 2306番1, 2306番2 2306番3, 2307番 2308番1, 2308番2 2308番3, 2309番1 2309番2, 2309番3 2347番10~11, 2348番1 2348番2, 2349番1	株式会社コガ食品	食品倉庫建設工事	17,069	290	平成29年12月12日 平成29年12月16日 平成29年12月17日	遺構・遺物は検出されなかつた。	工事実施	
15	寺家遺跡	上峰町大字前牟田字一本桜 1337番2の一部	個人	個人住宅建設工事	406	13	平成30年1月20日	ピット、土壤が検出された。遺物は検出されなかつた。	盛土保存を行い工事実施	
16	坊所五本谷遺跡(4)	上峰町大字坊所字五本谷 2090番5	個人	個人住宅建設工事	189	10	平成30年1月20日	遺構・遺物は検出されなかつた。	工事実施	
17	米多城跡	上峰町大字前牟田字館 693番1の一部	個人	個人住宅建設工事	445	10	平成30年1月20日	遺構・遺物は検出されなかつた。	工事実施	
18	極寺遺跡	上峰町大字坊所字極寺 685番2 697番 699番2 699番3 700番	社会福祉法人夷峰福祉会	保育園園舎改築工事	3,540	56	平成30年2月7日	中世の土壤・溝跡を検出した。土器断片が散見された。	工事実施予定	
19	周知外下津毛地区(2)	上峰町大字坊所字八本谷 2620番 2624番	個人	太陽光パネル設置工事	1,592	24	平成30年2月14日	遺構・遺物は検出されなかつた。	工事実施予定	
20	周知外下米多地区	上峰町大字前牟田字一本柳 1591番地1 1592番地1	株式会社ロジコム	駐車場造成工事	2,259	70	平成30年3月14日	遺構・遺物は検出されなかつた。	工事実施予定	
合計					46,763	1,182				

# 上峰町全図

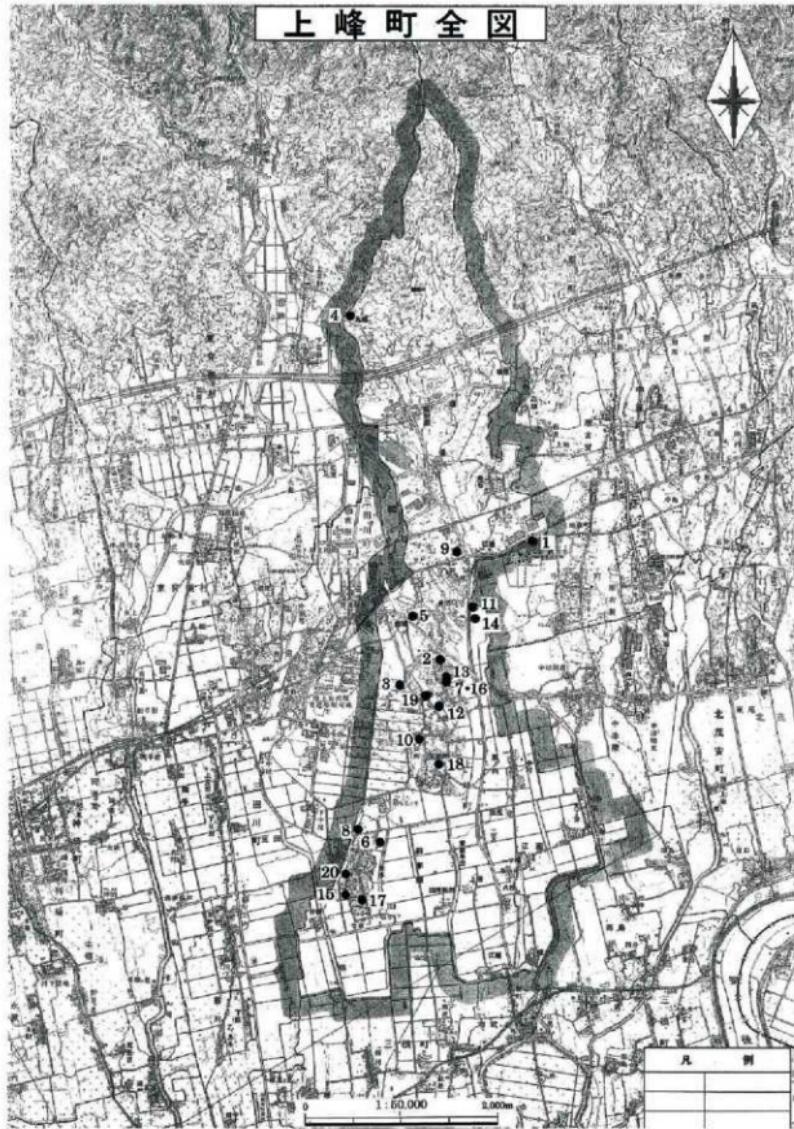


Fig. 3 平成29年度 確認調査地位置図 (1/50,000)

## H 29-1

遺跡名：船石一本杉遺跡

調査地：上峰町大字堤字一本杉28番の一部

工事内容：事務所建設工事

工事面積：406m<sup>2</sup>

調査面積：13m<sup>2</sup>

調査時期：平成29年5月15日・6月8日

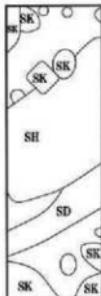
立地と環境： 船石一本杉遺跡は国道34号線沿線、

本町と中原町の境界付近に所在し、船石川東岸の標高18m付近の段丘上に位置している弥生時代の集落遺跡である。

調査対象区域は、標高19m付近に位置しており、これまで倉庫として利用されていた。

遺構と遺物： ピット、土壙、溝跡、住居址等が検出された。遺物包含層から弥生土器片を多数検出した。

調査後措置：盛土保存を行い、工事実施。



N°2

Fig. 6 トレンチ略図(1/200)

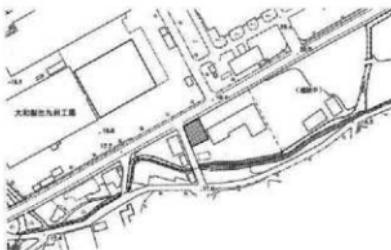


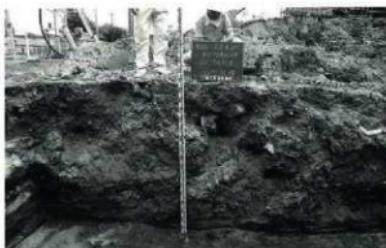
Fig. 4 船石一本杉遺跡 (1/5,000)



Fig. 5 トレンチ設定図 (1/1,000)



PL. 1 No.3試掘溝



PL. 2 No.3試掘溝断面

## H 29-2

遺跡名：坊所五本谷遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字五本谷1838番3

工事内容：個人住宅建設工事

工事面積：330m<sup>2</sup>

調査面積：17m<sup>2</sup>

調査時期：平成29年5月25日

立地と環境： 坊所五本谷遺跡は本町郡境集落付近か

ら下津毛集落付近へ延びる下津毛丘陵の  
南部、標高約7~16m付近に広がる弥生、  
古墳時代の集落および墳墓遺跡である。

調査対象区域はこの下津毛丘陵の中部、  
標高13m付近に位置しており、これまで  
宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 7 坊所五本谷遺跡(1) (1/5,000)



PL. 3 №1試掘溝

## H 29-3

遺跡名：三上遺跡

調査地：上峰町大字坊所字三上3270番5

工事内容：個人住宅建設工事

工事面積：415m<sup>2</sup>

調査面積：25m<sup>2</sup>

調査時期：平成29年5月25日

立地と環境： 三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近か

ら本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵  
の中央部、標高約8~16m付近に広がる  
縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落  
遺跡である。

調査対象区域は目達原丘陵の中央部、  
標高16m付近に位置しており、これまで  
宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 8 三上遺跡 (1/5,000)



PL. 4 №1試掘溝

## H 29-4

遺跡名：周知外島越地区

調査地：上峰町大字堤字三本黒木4544番2、4549番2、

4551番1、4546番、4349番1、4552番2

上峰町大字堤字二本黒木4327番、4328番

4329番1

工事内容：資材置き場造成工事

工事面積：3,531m<sup>2</sup>

調査面積：136m<sup>2</sup>

調査時期：平成29年6月5日、6日

立地と環境： 調査対象区域は町北部、吉野ヶ里町と

の町境に位置する島越地区的標高 60m

付近に位置し、これまで空き地となって

いた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 9 周知外島越地区 (1/5,000)



PL 5 No.1試掘溝

## H 29-5

遺跡名：坊所一本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字二本谷2511番8、2511番7、

2511番11、2511番12

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：523m<sup>2</sup>

調査面積：5m<sup>2</sup>

調査時期：平成29年6月28日

立地と環境： 坊所一本谷遺跡は、本町堤地区付近か

ら井手口住宅地区付近へ延びる井手口西

丘陵の北西部、標高 20m 付近に広がる弥生時代の集落遺跡である。

調査対象区域は、この下津毛丘陵の北

部、標高 21m 付近に位置しており、これ

まで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 10 坊所一本谷遺跡 (1/5,000)



PL 6 No.1試掘溝

## H 29-6

遺跡名：周知外上米多地区(1)

調査地：上峰町大字堤字上米多1916番1、1916番2

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：4,569m<sup>2</sup>

調査面積：110m<sup>2</sup>

調査時期：平成29年7月14日、18日、19日

立地と環境： 調査対象区域は町南部、吉野ヶ里町と

の町境に位置する上米多地区の標高4m

付近に位置し、これまで空き地となつて  
いた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかつた。

調査後措置：工事実施



Fig. 11 周知外上米多地区(1) (1/5,000)



PL. 7 調査地全景

## H 29-7

遺跡名：坊所五本谷遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字五本谷2090番7

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：262m<sup>2</sup>

調査面積：13m<sup>2</sup>

調査時期：平成29年8月30日

立地と環境： 坊所五本谷遺跡は本町郡境集落付近か

ら下津毛集落付近へ延びる下津毛丘陵の

南部、標高約7~16m付近に広がる赤生、  
古墳時代の集落および墳墓遺跡である。

調査対象区域はこの下津毛丘陵の中部、  
標高14m付近に位置しており、これまで  
宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかつた。

調査後措置：工事実施



Fig. 12 坊所五本谷遺跡(2) (1/5,000)



PL. 8 №1試掘溝

## H 29-8

遺跡名：周知外上米多地区(2)

調査地：上峰町大字前牟田字五本杉1559番地1、  
1559番地4

工事内容：資材置き場造成工事

工事面積：1,421m<sup>2</sup>

調査面積：60m<sup>2</sup>

調査時期：平成29年8月30日、31日

立地と環境： 調査対象区域は町南部、吉野ヶ里町と

の町境に位置する上米多地区的標高4m

付近に位置し、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 13 周知外上米多地区(2) (1/5,000)



PL. 9 №1試掘溝

## H 29-9

遺跡名：切通遺跡

調査地：上峰町大字堤字四本谷1903番195

工事内容：建売住宅建設工事

工事面積：249m<sup>2</sup>

調査面積：20m<sup>2</sup>

調査時期：平成29年9月8日

立地と環境： 切通遺跡は町中北部の上峰町大字堤字四本谷に所在し、二塚山丘陵状に位置する亦生時代の壺棺墓群を主体とする墳墓遺跡である。

調査対象区域は二塚山丘陵の北部、標高22m付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施

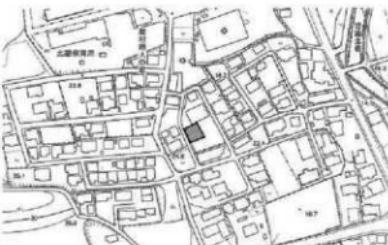


Fig. 14 切通遺跡 (1/5,000)



PL. 10 №1試掘溝

## H 29-10

遺跡名：杉寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字西峰2713番1、1376番1

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：773m<sup>2</sup>

調査面積：52m<sup>2</sup>

調査時期：平成29年9月20日

立地と環境： 杉寺遺跡は、本町大字坊所字杉寺に所在する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、目達原丘陵東辺部、および同丘陵から町中南部の現上坊所、下坊所集落付近へ派生する坊所丘陵の西辺部に跨って位置している。

調査対象区域は坊所丘陵の標高12m付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物： 遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 15 杉寺遺跡 (1/5,000)



PL. 11 №.1試掘溝

## H 29-11

遺跡名：周知外井手口地区(1)

調査地：上峰町大字坊所字三本谷2317番地、2317番地2、

2317番地3、2317番地4、2317番地5、

2317番地6、2317番地7、2317番地9、

2324番地1、2324番地2、2324番地3、

2325番地1、2326番地3

工事内容：店舗建設工事、駐車場造成工事

工事面積：5,408m<sup>2</sup>

調査面積：130m<sup>2</sup>

調査時期：平成29年10月30日、31日

立地と環境： 調査対象区域は町東部、みやき町との町境に位置する井手口地区の標高12m付近に位置し、これまで田として利用されていた。

調査後措置：工事実施



Fig. 16 周知外井手口地区(1) (1/5,000)



PL. 12 調査地全景

## H 29-12

遺跡名：周知外下津毛地区(1)

調査地：上峰町大字坊所字下津毛241番、238番

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：2,935m<sup>2</sup>

調査面積：80m<sup>2</sup>

調査時期：平成29年11月9日、10日

立地と環境： 調査対象区域は町東部、みやき町との

町境に位置する井手口地区的標高 12m

付近に位置し、これまで田として利用されてきた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 17 周知外下津毛地区(1) (1/5,000)



PL. 13 調査地全景

## H 29-13

遺跡名：坊所五本谷遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字五本谷1864番3

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：451m<sup>2</sup>

調査面積：48m<sup>2</sup>

調査時期：平成29年11月14日

立地と環境： 坊所五本谷遺跡は本町郡境集落付近から下津毛集落付近へ延びる下津毛丘陵の南部、標高約 7~16m 付近に広がる弥生、古墳時代の集落および墳墓遺跡である。

調査対象区域はこの下津毛丘陵の中部、標高 14m 付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 18 坊所五本谷遺跡(3) (1/5,000)



PL. 14 No.1試掘溝

## H 29-14

遺跡名：周知外井手口地区(2)

調査地：上峰町大字坊所字手口2301番1、2301番2、

2301番3、2303番、2304番、2305番1、

2305番2、2305番3、2306番1、2306番2、

2306番3、2307番、2308番1、2308番2、

2308番3、2309番1、2309番2、2309番3、

2347番1の一部、2348番1、2348番2、2349番1

工事内容：食品倉庫建設工事

工事面積：17,059m<sup>2</sup>

調査面積：290m<sup>2</sup>

調査時期：昭29年12月12日、16日、17日

立地と環境： 調査対象区域は町東部、みやき町との

町境に位置する井手口地区の標高10m

付近に位置し、これまで田として利用さ

れていた。遺構と遺物：遺構・遺物は検

出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 19 周知外井手口地区(2) (1/5,000)



PL. 15 調査地全景

## H 29-15

遺跡名：寺家遺跡

調査地：上峰町大字前半田字一本桜1337番2の一部

工事内容：個人住宅建設工事

工事面積：406m<sup>2</sup>

調査面積：13m<sup>2</sup>

調査時期：平成30年1月20日

立地と環境： 寺家遺跡は、本町の中央部から南部に

かけてのびる目達原丘陵の南部、現寺家

一集落の標高4m付近に位置する弥生時

代の集落跡である。

調査対象区域は4m付近に位置しており、これまで宅地であった。

遺構と遺物：ピット、土壙が検出された。遺物は検出されなかった。

調査後措置：盛土保存をして工事実施



Fig. 20 寺家遺跡 (1/5,000)

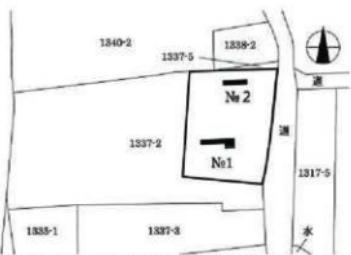


Fig. 21 トレンチ設定図 (1/1,000)

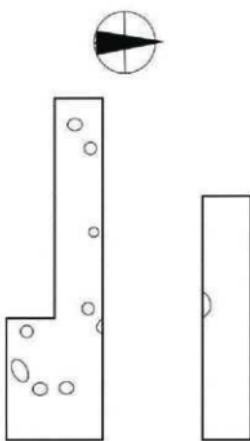


Fig. 22 トレンチ略図(1/200)



PL. 16 調査地全景



PL. 17 No.1試掘溝検出状況

#### H 2 9 - 1 6

遺跡名：坊所五本谷遺跡(4)

調査地：上峰町大字坊所字五本谷2090番5

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：189m<sup>2</sup>

調査面積：10m<sup>2</sup>

調査時期：平成30年1月20日

立地と環境： 坊所五本谷遺跡は本町郡境集落付近から下津毛集落付近へ延びる下津毛丘陵の南部、標高約 7～16m 付近に広がる弥生、古墳時代の集落および墳墓遺跡である。

調査対象区域はこの下津毛丘陵の中部、標高 14m 付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物： 遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 23 坊所五本谷遺跡(4) (1/5,000)



PL. 18 No.1試掘溝

## H 29-17

遺跡名：米多城跡

調査地：上峰町大字前牟田字館693番1の一部

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：445m<sup>2</sup>

調査面積：10m<sup>2</sup>

調査時期：平成30年1月20日

立地と環境： 米多城跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵南端が沖積地に接する下米多・寺家一・寺家二集落一帯の標高約4m付近に所在する中世の城館跡である。

調査対象区域は現寺家一集落内の沖積地標高3.7m付近に位置しており、宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施



Fig. 24 米多城跡 (1/5,000)



PL. 19 調査地全景

## H 29-18

遺跡名：樫寺遺跡

調査地：上峰町大字坊所字樫寺685番2、697番、699番2、

699番3、700番

工事内容：保育園園舎建替え工事

工事面積：3,540m<sup>2</sup>

調査面積：56m<sup>2</sup>

調査時期：平成30年2月7日

立地と環境： 樫寺遺跡は、上峰町大字坊所字樫寺一帯を占有する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、吉野ヶ里町目達原付近から本町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、標高約9m～11m付近に位置している。

調査対象区域は坊所丘陵の東端部、標高7m付近に位置しており、これまで保育園の園庭として利用されていた。

遺構と遺物：No1・5 試掘溝で中世の土壤・溝跡を検出した。土師器片が散見された。

調査後措置：工事実施



Fig. 25 樫寺遺跡 (1/5,000)

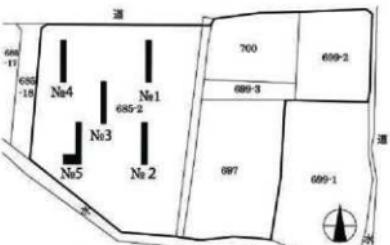


Fig. 26 トレンチ設定図 (1/1,000)

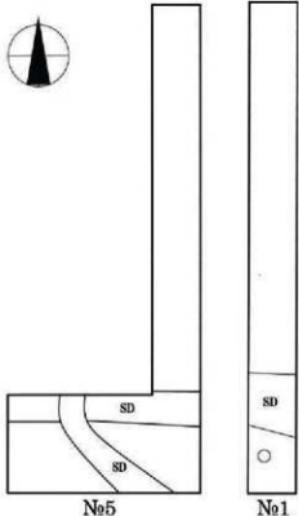


Fig. 27 トレンチ略図(1/200)



PL. 20 調査地全景



PL. 21 No.5試掘溝造構検出状況

#### H 29-19

遺跡名：周知外下津毛地区(2)

調査地：上峰町大字坊所字八木谷2620番、2624番

工事内容：太陽光パネル設置工事

工事面積：1,592m<sup>2</sup>

調査面積：24m<sup>2</sup>

調査時期：平成30年2月14日

立地と環境： 調査対象区域は下津毛丘陵と坊所丘陵に挟まれた場所に位置する下津毛地区の標高10m付近に位置し、これまで田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は検出されなかった。

調査後措置：工事実施

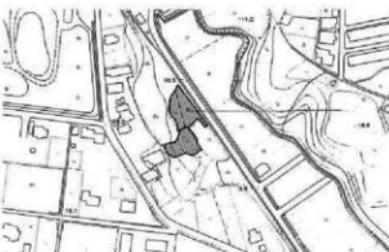


Fig. 28 周知外下津毛地区(2) (1/5,000)



PL. 22 調査地全景

## H 29-20

遺 踪 名 : 周知外下米多地区

調 査 地 : 上峰町大字前牟田字一本柳1591番地1、  
1592番地1

工事内容 : 駐車場造成工事

工事面積 : 2,259m<sup>2</sup>

調査面積 : 70m<sup>2</sup>

調査時期 : 平成30年3月14日

立地と環境 : 調査対象区域は日達原丘陵南端、米多

地区的集落が立地する微高地の西方、西  
の川の東岸沖積地、標高4m付近に位置  
し、これまで田として利用されていた。

遺構と遺物 : 遺構、遺物は検出されなかった。

調査後措置 : 工事実施



Fig. 29 周知外下米多地区 (1/5,000)



PL. 23 調査地全景

#### IV. 平成29年度の本調査

Tab.2 平成29年度 町内遺跡本調査一覧表

No	遺跡名	所在地	原 因 者	事業内容	工事面積(m <sup>2</sup> )	調査面積(m <sup>2</sup> )	発認調査時期	発掘調査結果	調査後の措置	備 考
1	権寺遺跡(1)	上峰町大字坊所字権寺 597番地13	個人	個人専用住宅建設工事	248	150	平成29年6月26日 ↓ 平成29年7月31日	弥生時代の擺動、弥生時代から中世に及ぶ土壙、ビットなどが検出され、弥生土器片、須恵器片、土師器片、黒曜石などが出土した。	本調査後、工事実施。	
2	権寺遺跡(2)	上峰町大字坊所字権寺 597番地9	個人	個人専用住宅建設工事	232	100	平成29年8月1日 ↓ 平成29年8月28日	弥生時代から中世に及ぶ住居址、土壙、ビットなどが検出され、弥生土器片、須恵器片、土師器片、黒曜石などが出土した。	本調査後、工事実施。	
3	権寺遺跡(3)	上峰町大字坊所字権寺 597番地7	個人	個人専用住宅建設工事	223	110	平成29年9月11日 ↓ 平成29年9月29日	弥生時代から中世に及ぶ住居址、堀、土壙、ビットなどが検出され、弥生土器片、須恵器片、土師器片、黒曜石などが出土した。	本調査後、工事実施。	
4	権寺遺跡(4)	上峰町大字坊所字権寺 597番地10	個人	個人専用住宅建設工事	233	180	平成29年11月30日 ↓ 平成29年12月23日	弥生時代から中世に及ぶ住居址、土壙、ビットなどが検出され、弥生土器片、土師器片、黒曜石などが出土した。	本調査後、工事実施。	
5	権寺遺跡(5)	上峰町大字坊所字権寺 597番地8	個人	個人専用住宅建設工事	220	120	平成29年12月29日 ↓ 平成30年1月31日	弥生時代から中世に及ぶ住居址、土壙、ビットなどが検出され、弥生土器片、土師器片、須恵器片、黒曜石などが出土した。	本調査後、工事実施。	
6	権寺遺跡(6)	上峰町大字坊所字権寺 597番地12	個人	個人専用住宅建設工事	498	100	平成30年1月20日 ↓ 平成30年1月31日	弥生時代から中世に及ぶ摆動、土壙、ビットなどが検出され、弥生土器片、土師器片、須恵器片、黑曜石などが出土した。	本調査後、工事実施。	
合 计					1,654	760				



Fig.30 平成29年度 本調査地位置図 (1/50,000)

## 樫寺遺跡7区～12区発掘調査

### 1. 遺跡の概要 (Fig.30,31)

樫寺遺跡は、上峰町中南部、現上坊所集落が所在する大字坊所字樫寺一帯に所在する弥生時代から中世にわたる集落遺跡で、吉野ヶ里町目達原付近から本町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、標高約9m～11m付近に位置している。遺跡の中央部は中世城館跡である坊所城跡が占有し、周辺には杉寺遺跡、坊所二本松遺跡、坊所三本松遺跡などが分布している。

これまでの樫寺遺跡内における官民の開発に伴い実施した確認調査、発掘調査において弥生時代の竪穴式住居跡、甕棺墓や土壙、奈良時代の竪穴式住居跡や掘立柱建物跡、中世坊所城関連の建物跡、溝跡、井戸跡などの遺構が検出または確認され、それらの遺構に伴い、弥生式土器、土師器・須恵器、中世土器・舶載陶磁器などが出土している。

### 2. 調査区と調査の概要 (Fig.31～34・PL.24)

平成28年6月に実施した民間事業者による分譲宅地造成工事に伴う確認調査において開発予定範囲全域にわたりて遺跡が遺存していることが確認された。当該分譲宅地造成工事の実施にあたって、上下水道、道路側溝などの設置により削平工事の影響が及ぶ宅地内の通路部分については8月から記録保存を目的とした本調査を実施したが、宅地部分については盛土または現況保存を行うことを確認し本調査の対象外として取扱った。

この分譲宅地造成工事の竣工後、宅地購入後の施工より、改めて個人専用住宅建設工事について「埋蔵文化財発掘の届出」がなされ、宅地として造成された8区画のうち、住宅基礎工事や駐車場設置工事により地下の埋蔵文化財に工事の影響が及ぶ6区画について記録保存を目的とした本調査を実施した。この6件の発掘調査は、樫寺遺跡内の近接した区域の発掘調査であり、調査区名、調査区所在地、調査面積、調査期間は、Tab.2 平成29年度 本調査一覧表のとおりである。

発掘調査の結果、弥生時代および奈良時代の竪穴式住居址、甕棺墓、土壙、溝跡、ピットなどが検出され、それらの遺構から弥生式土器、土師器・須恵器、中世土器、その他石器などが出土した。



Fig.31 梶寺遺跡周辺地形図及び調査区位置図 (1/5,000)

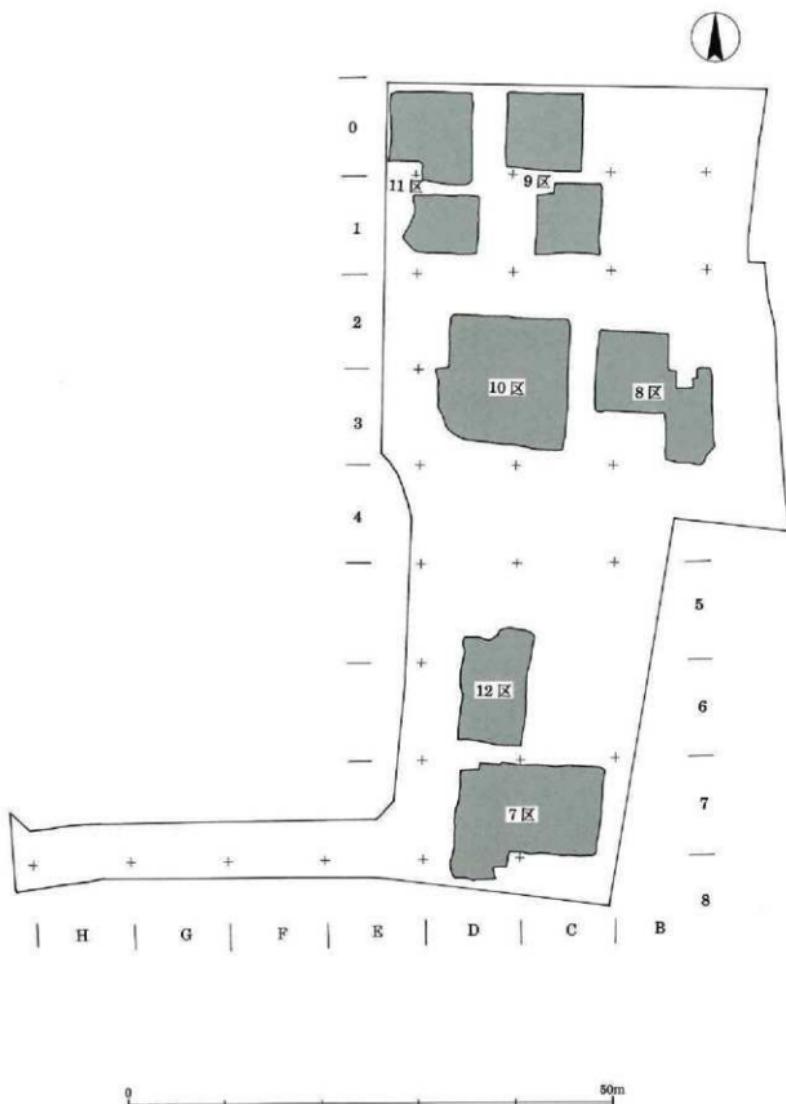


Fig.32 楼寺遺跡 7区～12区 調査区配置図 (1/500)

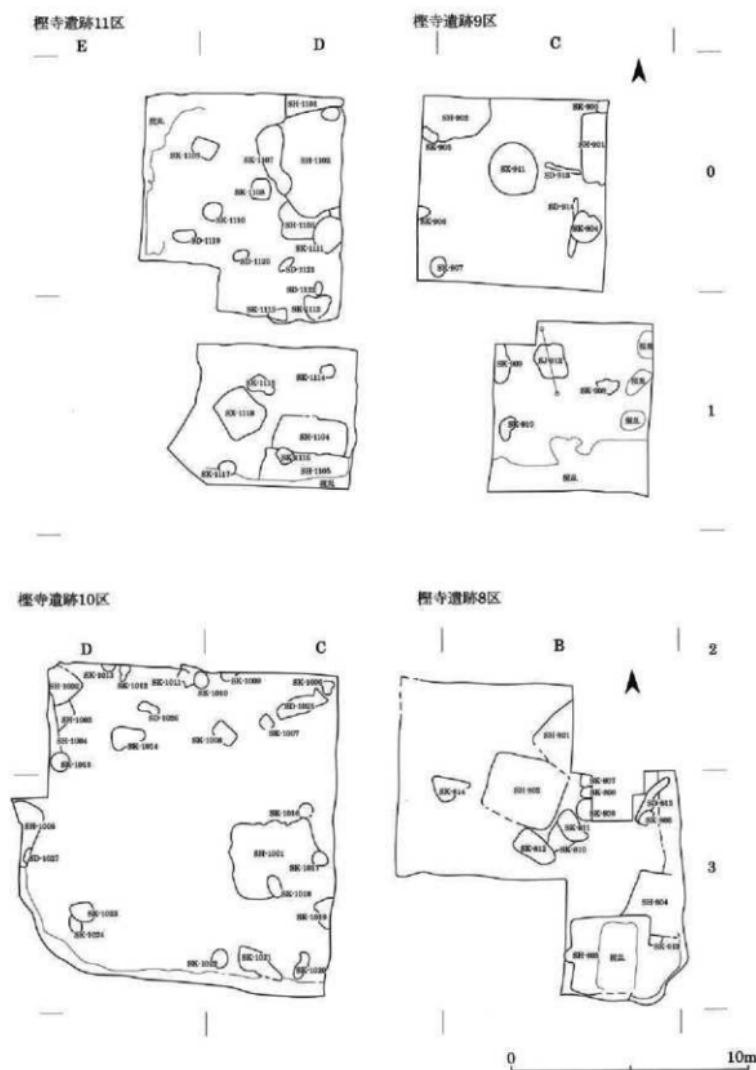


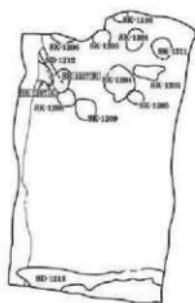
Fig.33 楼寺遺跡7区～12区 遺構配置図(1) (1/200)

櫻寺遺跡12区

D

C

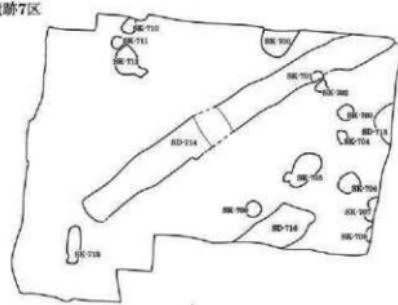
5



6

櫻寺遺跡7区

7



0 10m

Fig.34 櫻寺遺跡7区～12区 遺構配置図（2）(1/200)

### 3. 造構 (Fig.33~45・PL.25~45)

今回の調査で検出された造構は、堅穴式住居址16軒、槨棺墓1基、溝跡1条、土壙等76基であった。

また、7区の溝跡SD-714、SD-716で多數の弥生式土器が出土したが、その他の造構は出土遺物も少なかった。

#### (1) 堅穴式住居址 (Fig.35~37)

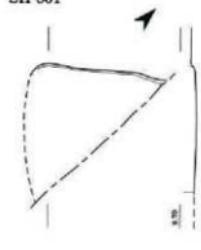
今回、堅穴式住居址として調査した造構は16軒であった。住居の形態、出土遺物などから、SH-802などは弥生時代、SH-804・SH-805・SH-1001・SH-1102・SH-1104などは奈良時代の所産になると推測できる。その他堅穴式住居址は、まとまった遺物をもつものもなく、時期を特定するまでには至らなかった。

以下、形態、法量等を一覧表にまとめ報告とする。

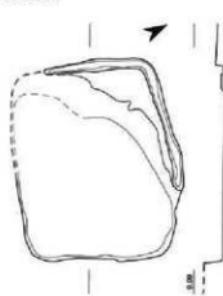
Tab.3 摂寺遺跡7区~12区 出土堅穴式住居址一覧表

住居址番号	平面形	規模 (m <sup>2</sup> )			棟方向	屋内施設			出土遺物	備考
		長辺	短辺	深さ		主柱穴	構	炉・焼土など		
SH-801	方形	※2.1	※2.0	0.05	※2.8	N-45°・W				
SH-802	圓丸方形	(2.4)	(2.2)	0.12	※4.3	N-70°・W	○			弥生時代？
SH-804	不整方形	2.6	※2.2	0.07	※5.8	N-20°・E		竈	須恵器壺蓋	奈良時代
SH-805	正方形	3.3	3.2	0.27	10	N-0°		竈	土師器壺	奈良時代
SH-901	方形	2.9	※1.1	0.09	※2.6	N-0°	○		砥石	
SH-902	圓丸方形？	2.8	※1.9	0.09	※4.2	N-0°	○		石織	
SH-1001	方形	3.4	3.2	0.10	(9.9)	N-5°・W	4	竈	砥石	奈良時代
SH-1002	？	※1.5	※0.6	0.11	※1.3	N-42°・W				
SH-1003	方形？	※1.0	※0.6	0.11	※0.5	N-45°・W				
SH-1004	方形？	3.1	※0.4	0.08	※0.8	N-5°・W				
SH-1005	不整方形？	2.6	※1.5	0.29	※0.8	N-21°・E				
SH-1101	不整方形？	※2.4	※1.0	0.05	※1.1			燒土塊		
SH-1102	不整圓丸方形	4.2	※3.3	0.05	※11.9	N-36°・W		竈		奈良時代
SH-1103	？	※1.4	※1.1	0.06	※1.3				石織	
SH-1104	方形	3.1	※1.4	0.07	※3.7	N-13°・E			須恵器壺・石織	奈良時代
SH-1105	方形	3.5	※1.1	0.11	※3.5	N-10°・W				

SH-801



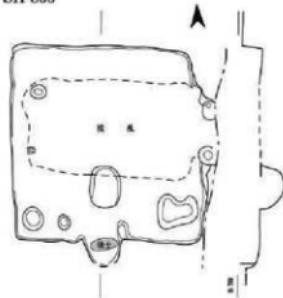
SH-802



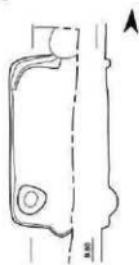
SH-804



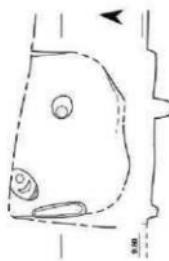
SH-805



SH-901



SH-902



0

4m

Fig.35 樅寺遺跡7区～12区 出土堅穴式住居址実測図（1）(1/80)

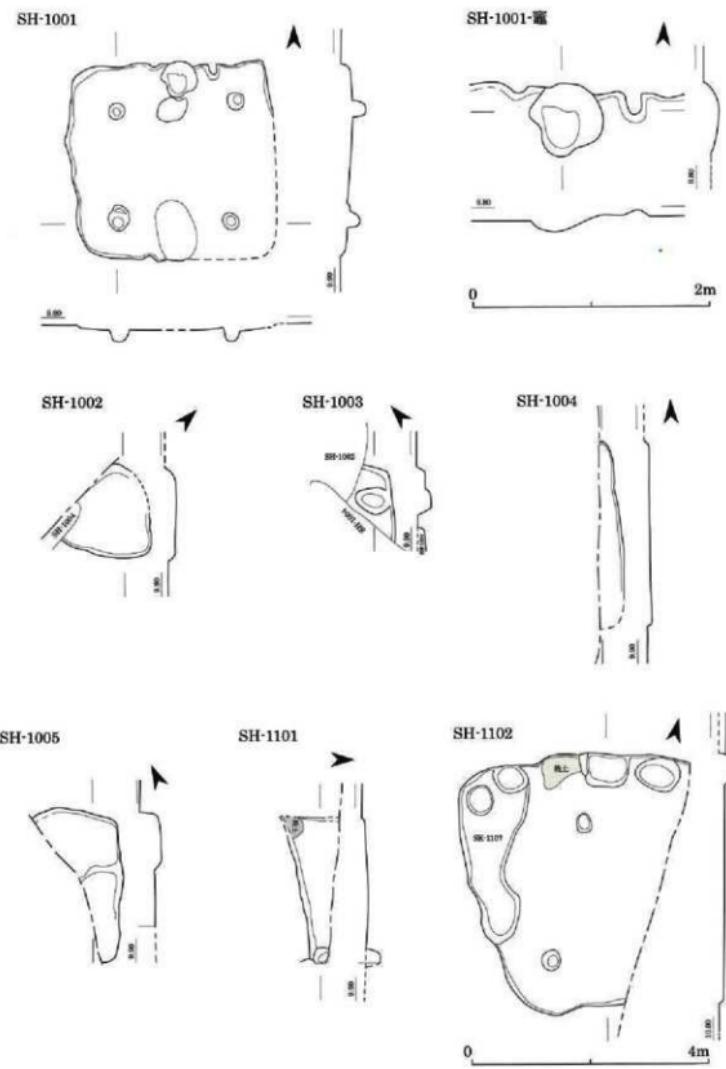


Fig.36 境寺遺跡7区～12区 出土堅穴式住居址実測図(2) (1/80)

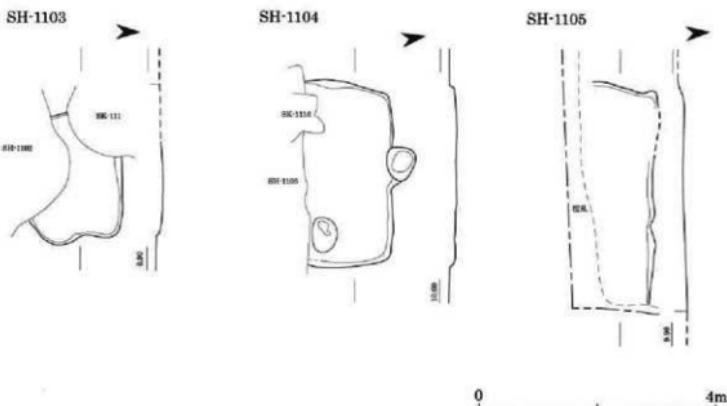


Fig.37 楼寺遺跡7区～12区 出土堅穴式住居址実測図(3) (1/80)

## (2) 土壙 (Fig.38~42,45)

今回の調査で土壙として取り扱った貯蔵穴などの遺構は 76 基であった。これらの土壙は、まとまった遺物をもつものが少なく、時期を特定するまでには至らなかった。

以下、形態、法量等を一覧表にまとめ報告とする。

Tab.4 横寺遺跡7区～12区 出土土壙一覧表

遺構番号	平面形態	遺構 (上段: 上面、下段: 底面・底盤 長さ・対角 幅・埋深 深さ)				柱穴状の ビットなど	出土 遺物	備 考
		上面	底面	底盤	深さ			
SK-700	不整橢円形	※1.10 ※1.07	1.50 1.40	0.04		※1.1		
SK-701	不整円形	0.55 0.28	0.59 0.46	0.15		※0.1		
SK-702	不整形	0.70 0.62	0.46 0.41	0.12	0.1			
SK-703	不整方形	0.65 0.60	0.60 0.53	0.30	0.2			
SK-704	不整円形	0.78 0.75	0.45 0.39	0.07	0.2			
SK-705	不整橢円形	1.50 1.36	0.98 0.36	0.39	0.3			
SK-706	不整円形	0.93 0.72	0.82 0.64	0.68	0.4		磨り石	
SK-707	不整形	1.05 0.90	※0.49 ※0.28	0.35	※0.2			
SK-708	円形	0.60 0.50	※0.20 ※0.15	0.52	※0.1			
SK-709	円形	0.65 0.42	0.61 0.43	0.19	0.1			
SK-710	不整形	0.73 0.64	0.60 0.48	0.09	0.2			
SK-711	不整円形	0.58 0.45	0.50 0.40	0.05	0.1			
SK-712	不整円形	0.95 1.35	0.64 0.53	0.29	0.5			
SK-713	不整長方形	1.57 1.48	0.57 0.36	0.33	0.5			
SK-806	不整方形	0.76 0.64	0.53 0.40	0.23	0.3			
SK-807	不整方形	0.48 0.40	※0.40 ※0.28	0.38	※0.1			
SK-808	不整方形	※0.50 ※0.40	0.48 0.38	0.26	※0.2			
SK-809	不整方形	※0.70 ※0.65	0.98 0.58	0.32	0.5			
SK-810	不整形	(2.5) (2.3)	1.12 1.05	0.11	(2.0)			
SK-811	不整形	1.52 1.22	0.94 0.64	0.26	1.1			
SK-812	不整形	1.94 1.85	1.10 0.95	0.14	1.6		鉗目突帯文土器	
SK-813	方形?	※0.55	※0.45	0.24	0.1			
SK-814	不整形	0.49 1.34	1.30 1.20	0.03	0.8			
SK-903	不整円形	(0.7) (0.5)	(0.6) (0.5)	0.38	※0.1			
SK-904	不整円形	1.26 0.93	1.22 0.84	0.17	0.6		土師器裏・須恵器坏面	
SK-905	不整橢円形	0.85 0.65	0.45 0.30	0.20	0.2			
SK-906	不整形	※0.60 ※0.36	0.65 0.44	0.05	※0.1			
SK-907	不整円形	0.74 0.70	0.74 0.70	0.11	0.3			
SK-908	不整形	0.92 0.83	0.72 0.68	0.66	0.1			
SK-909	不整形	※1.64 ※1.60	0.76 0.66	0.22	※0.2		鉗目突帯文土器	
SK-910	不整形	0.85 0.75	0.64 0.44	0.92	0.3			
SX-911	円形	2.25 2.09	2.16 1.94	0.62	3.2		須恵器裏・土師器裏	井戸跡
SK-1006	円形	0.62 0.48	0.60 0.44	0.19	0.1			
SK-1007	不整方形	0.62 0.46	0.56 0.44	0.16	0.1			
SK-1008	方形	1.05 0.90	0.70 0.56	0.16	0.5			
SK-1009	不整形	※0.44 ※0.30	※0.42 0.32	0.20	0.1			
SK-1010	不整方形	0.60 0.56	0.58 0.24	0.28	0.1		齊生式土器裏	

遺物番号	平面形態	規格（上段：上面、下段：底面、単位m・mm）				柱穴式の ピットなど	出土遺物	備考
		長さ・直径	幅・周囲	高さ	底面積			
SK-1011	不整形	0.60 0.47	0.52 0.22	0.13	0.1			
SK-1012	不整形	0.64	0.46	0.18	0.1			
SK-1013	橢円形?	0.56 0.39	0.55 0.42	0.17	※0.1			
SK-1014	不整形	1.36	0.55 0.80	0.23	0.7			
SK-1015	円形	0.84 0.72	0.78 0.64	0.70	0.1			
SK-1016	円形	0.76 0.14	0.66 0.12	0.12	0.1			
SK-1017	不整円形	0.63 0.46	0.63 0.32	0.39	0.1			
SK-1018	橢円形	1.02 0.97	0.66 0.60	0.54	0.3			
SK-1019	不整形	1.26 0.99	0.70 0.58	0.06	※0.4			
SK-0120	不整形	1.15 1.00	0.50 0.35	0.07	0.3			
SK-1021	不整形	2.16 1.84	1.00 0.50	0.12	0.8			
SK-1022	円形	0.76 0.60	0.70 0.62	0.24	0.3			
SK-1023	不整形	1.02 0.74	0.78 0.60	0.36	0.4			
SK-1024	不整橢円形	0.50 0.49	0.70 0.50	0.50	※0.1			
SK-1106	不整橢円形	0.75 0.60	0.54 0.36	0.17	0.2			
SK-1107	不整形	2.86 2.76	1.14 1.06	0.10	1.9			
SK-1108	不整方形	0.84 0.77	0.81 0.65	0.08	0.5			
SK-1109	方形	0.75 0.71	0.75 0.71	0.50	0.5			
SK-1110	不整円形	0.85 0.80	0.72 0.64	0.07	0.4			
SK-1111	不整円形	1.52 0.65	1.20 0.66	0.48	0.3			
SK-1112	不整形	1.13 1.07	0.90 0.84	0.03	0.7			
SK-1113	不整形	0.80 0.68	0.53 0.46	0.04	0.2			
SK-1114	不整方形	0.45 0.40	0.40 0.40	0.07	0.1			
SK-1115	不整形	0.80 0.40	0.78 0.45	0.45	0.1			
SK-1116	不整形	0.74 0.46	0.60 0.46	0.34	0.2			
SK-1117	不整方形	0.66 0.46	0.56 0.46	0.31	0.2			
SK-1118	不整方形	2.83 2.77	1.75 1.43	0.32	1.9	弥生式土器鉢・石斧	弥生時代 住居跡か?	
SK-1201	方形	0.62 0.68	0.67 0.66	0.37	0.3			
SK-1202	不整形	1.26	0.58	0.69	0.4			
SK-1203	不整円形	0.72 0.60	0.60 0.42	0.50	0.2			
SK-1204	不整方形	1.30 1.20	1.16 1.07	0.06	0.9			
SK-1205	橢円形	0.64 0.50	0.53 0.48	0.16	0.2	石器		
SK-1206	不整方形	1.12 1.18	0.50 0.46	0.23	※0.2			
SK-1207(A)	不整形	0.80 0.64	0.84 0.70	0.21	※0.3			
SK-1207(B)	不整形	1.00 0.32	0.82 0.65	0.47	0.2			
SK-1208	不整円形	1.08 0.74	1.02 0.85	0.18	0.2	縄目突起文土器		
SK-1209	不整方形	0.98 0.60	0.86 0.66	0.65	0.3			
SK-1210	不整形	0.24 0.86	0.23 0.76	0.49	0.3			
SK-1211	不整円形	0.60 0.60	0.60	0.17	0.3			

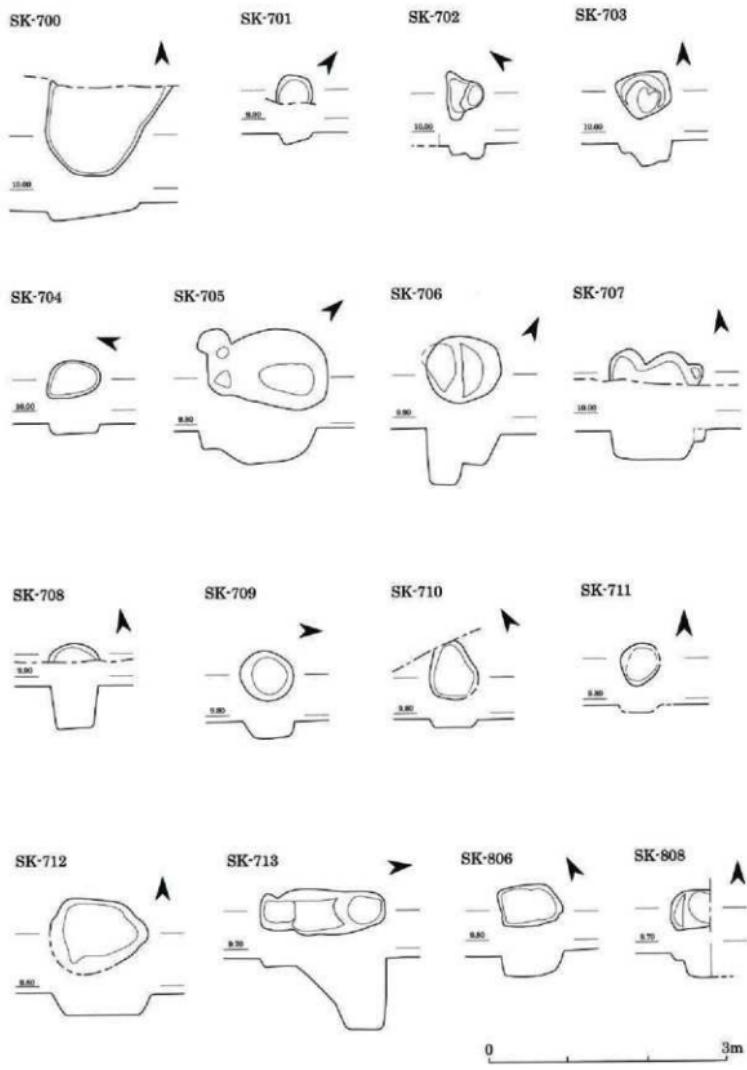


Fig.38 楼寺遺跡7区～12区 出土土壤実測図(1) (1/60)

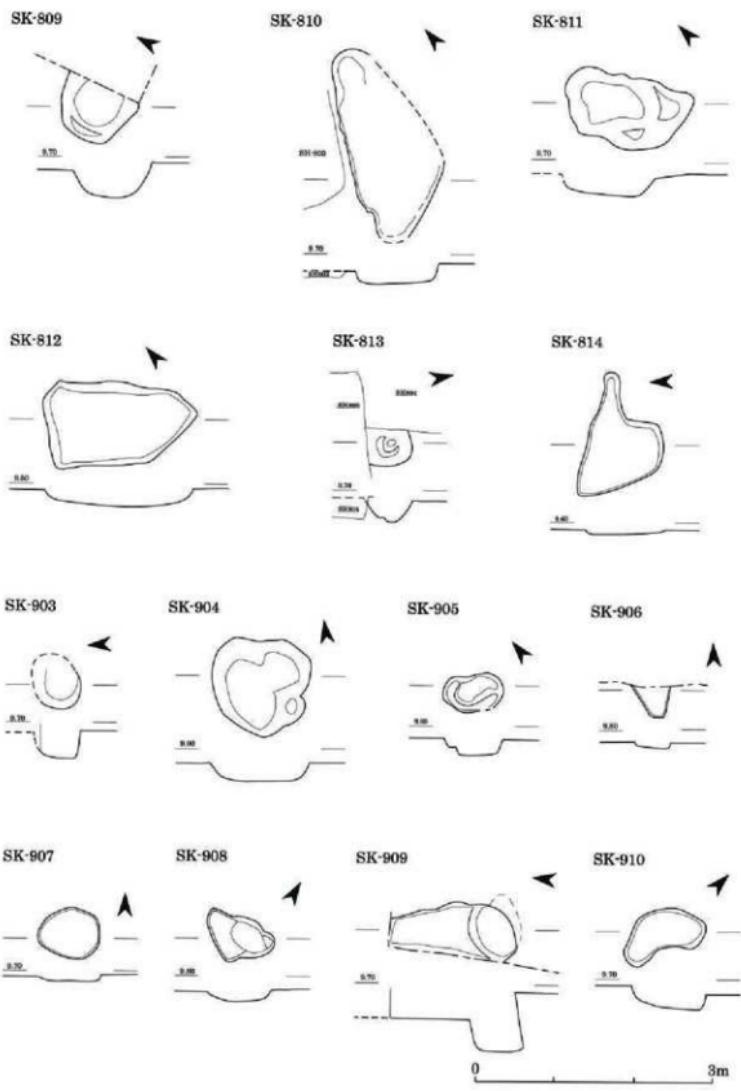


Fig.39 桜寺遺跡7区～12区 出土土壙実測図(2) (1/60)

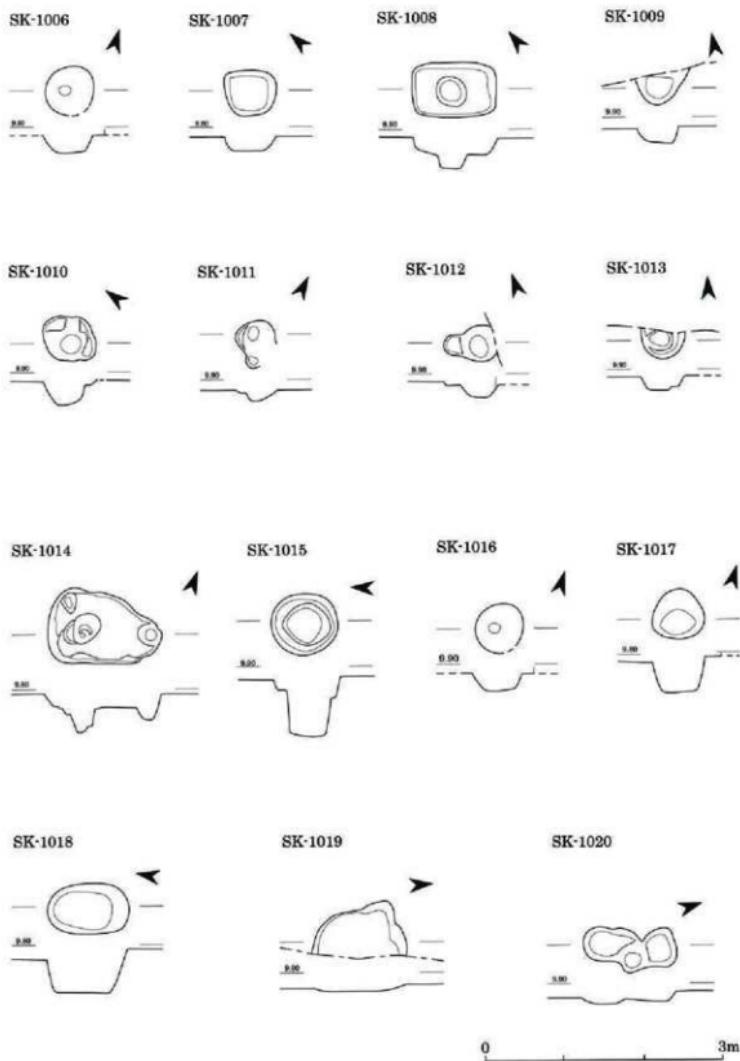


Fig.40 楼寺遺跡7区～12区 出土土壤実測図(3) (1/60)

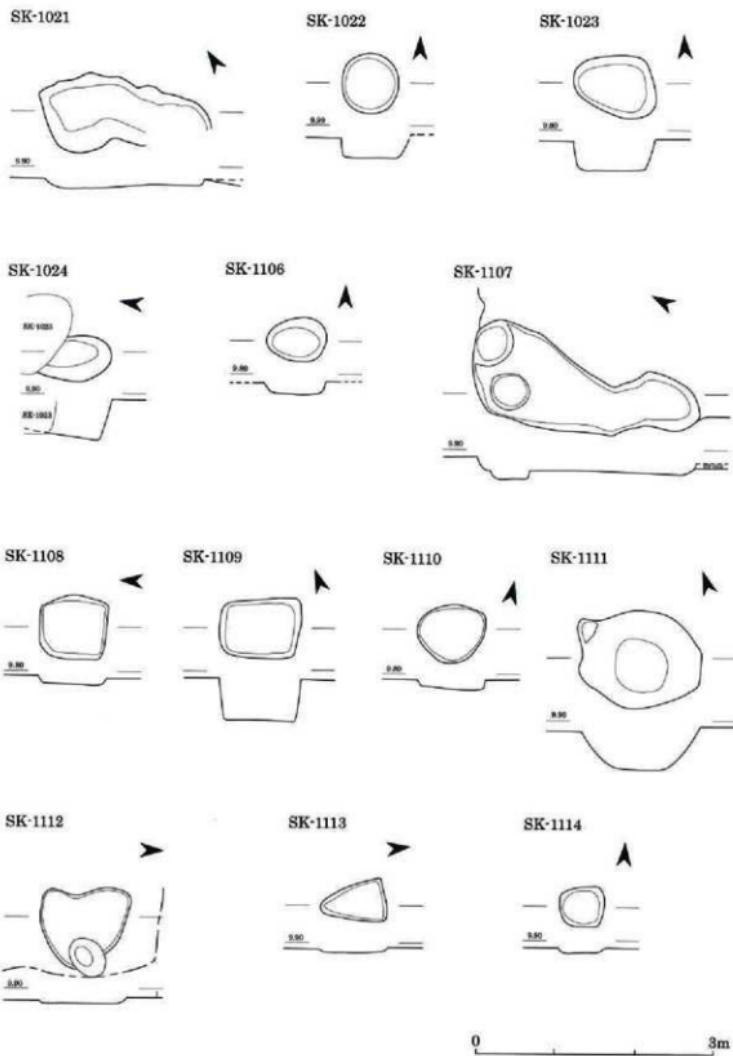


Fig.41 横寺遺跡7区～12区 出土土壤実測図(4)(1/60)

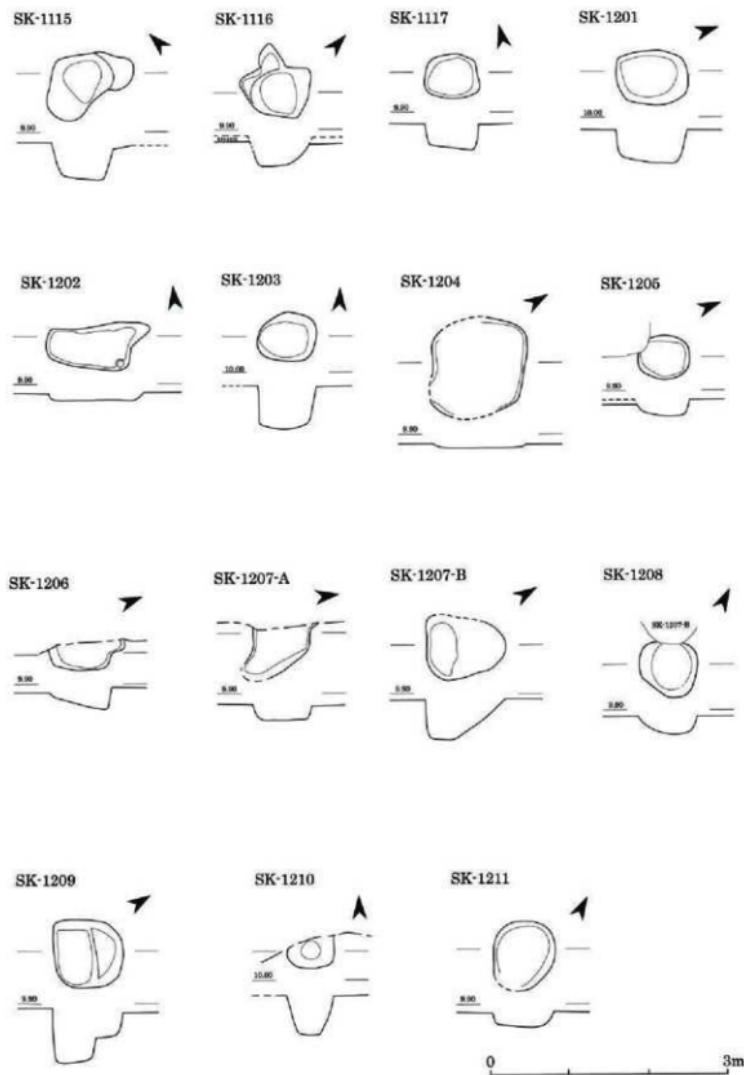


Fig.42 桂寺遺跡7区～12区 出土土壙実測図(5) (1/60)

### (3)溝跡 (Fig.43,44)

今回、溝跡として調査した遺構は7区の調査で検出されたSD-714・SD-715・SD-716とその他5条であった。遺物を大量に出土した溝跡SD-714・SD-715・SD-716は弥生時代後期前半、その他の溝跡は、まとまった遺物をもつものもなく、時期を特定するまでには至らなかった。

7区の調査で検出された溝跡SD-714・SD-715・SD-716は、2条1組の溝跡で、延長15m、幅員上面で1.5m前後、底面で0.5m前後、深さ0.8m前後のU字溝で、調査区の北東隅から南西隅に向かって走っている。当初、SD-714の1条のみを溝跡として調査したが、SD-715・SD-716の調査をとおして、SD-714と4m～5mの間隔で平行していることから、SD-715・SD-716も断続的な1条の溝跡であり、かつSD-714とともに2条1組の溝跡であると推測されるようになった。SD-714の西端部以西部分と、SD-715・SD-716の中間部分に溝は見えないが、おそらくこの部分が陸橋部にあたると考えられ、SD-714とSD-715・SD-716といいわゆる「噛違い」を形成しているものと考えられる。

### (4)甕棺墓 (Fig.45)

今回、甕棺墓は1基検出され、SJ-912として調査した。

弥生時代中期前半の接口式の成人棺。上甕の大部分と下甕の一部を後世の削平によって失っている。

1.5m×1.3m、深さ0.3mの不整形の一次墓壙の北辺に直径1m、深さ1m強の二次墓壙が設けられ、棺体を埋納している。上甕は逆L字形口縁の鉢(口径不明、器高遺存部長13cm)、下甕はT字形口縁の砲弾形の甕(口径90cm、器高117cm)。主軸は、N-165°・E、下甕の傾斜は53°。

SD-714

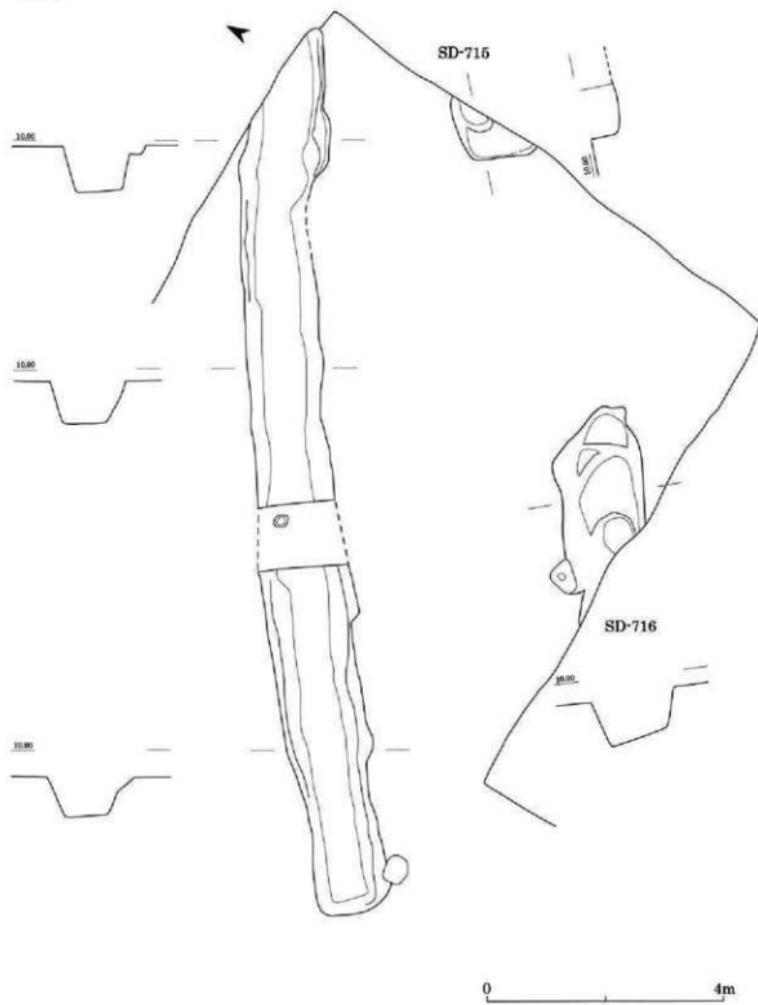
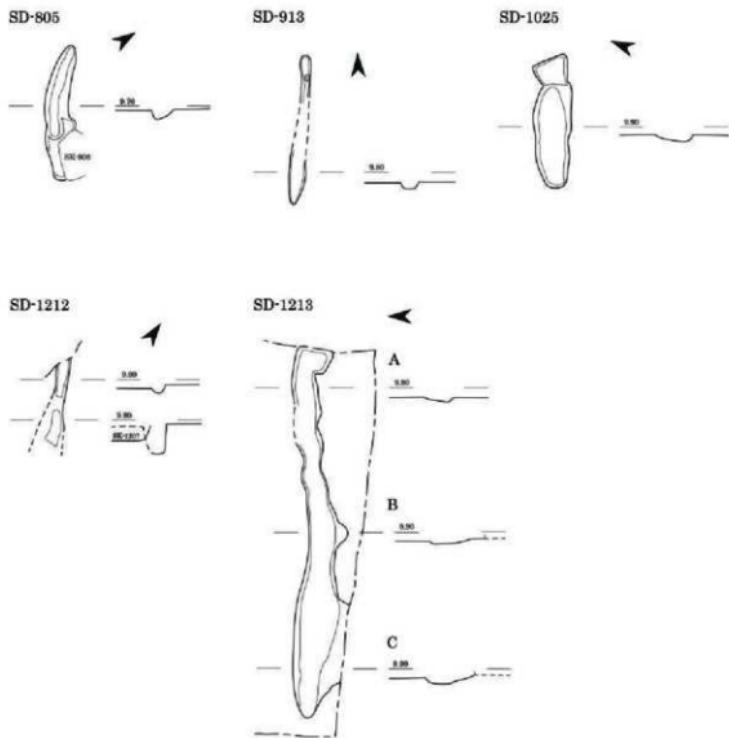


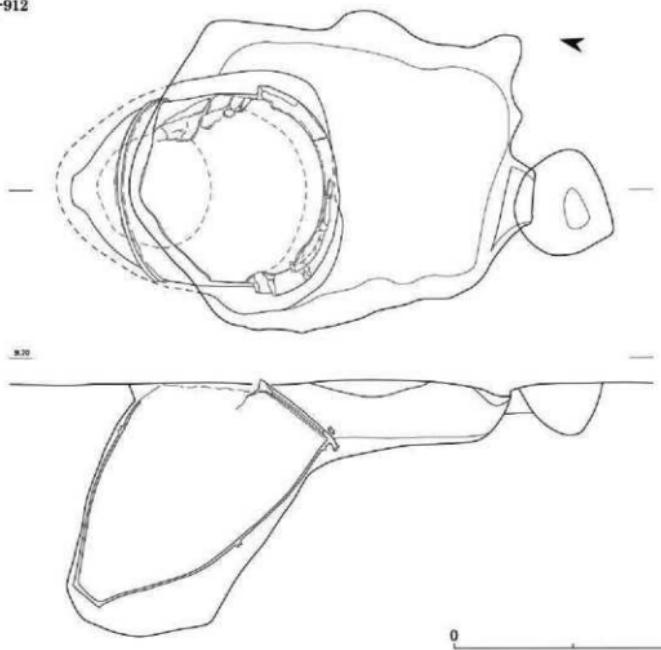
Fig.43 楼寺遺跡7区～12区 出土溝跡実測図(1) (1/80)



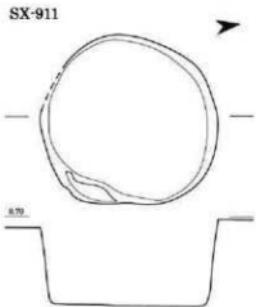
0 4m

Fig.44 楼寺遺跡7区～12区 出土構跡実測図 (2) (1/80)

SJ-912



SX-911



SX-1118

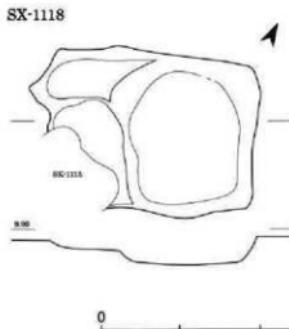


Fig.45 楼寺遺跡7区～12区 出土甕棺墓・その他の遺構実測図

#### 4. 遺物 (Fig.46~55・PL.46~54)

今回の探査跡7区～12区の調査において検出された各遺構から、弥生式土器、土師器・須恵器をはじめ石製品などの遺物が出土した。

弥生時代後期前半の土器がまとまって大量に出土したSD-714、SD-715・SD-716を除いて、各遺構から出土した遺物の量は比較的の少量で、土壇など時期の特定に至らなかつた遺物も多かつた。

##### SK-713出土遺物 (Fig.46・PL.46)

1は、弥生式土器の甕。

##### SD-714出土遺物 (Fig.46~52・PL.46~50)

2～61は、弥生式土器。2～12、35～39は甕。13～16は小型の鉢。17は碗。18・19は小型の手捏ね土器。20～34は壺。20、21、26～33は袋状口縁をもつ。40～52、57～61は器台。53～56は高壺。56は脚に円形透かしをもつ。

##### SD-716出土遺物 (Fig.52,53・PL.50~52)

62～75は、弥生式土器。62～64、66、67は甕。65は大型の壺。68、69は碗。70～75は器台。

##### SH-804出土遺物 (Fig.54・PL.52)

76は、須恵器壺蓋。

##### SD-805出土遺物 (Fig.54・PL.52)

77は弥生式土器の甕。

##### SK-812出土遺物 (Fig.54・PL.52)

78～80は、刻目突帯文土器。

##### SK-904出土遺物 (Fig.54・PL.52)

81は、土師器甕。82は須恵器壺蓋。

##### SK-909出土遺物 (Fig.54・PL.52)

83、84は、刻目突帯文土器。

##### SX-911出土遺物 (Fig.54・PL.52,53)

85、88は土師器の甕。88は把手をもつ。86、87は須恵器甕。89、90は刻目突帯文土器。

##### SJ-912甕棺・出土遺物 (Fig.54,55・PL.53)

91は棺体に用いられた土器。上甕は浅鉢、下甕は砲弾型の甕。92はSJ-912の棺内に落ち込んだ土師器甕。

SK-1010出土遺物 (Fig.55・PL.53)

93は弥生式土器の壺。

SH-1104出土遺物 (Fig.55)

96は須恵器壺。

SX-1118出土遺物 (Fig.55)

94、95は弥生式土器の鉢。

SK-1205出土遺物 (Fig.55)

98は弥生式土器の壺。

SK-1208出土遺物 (Fig.55・PL.53)

97は刻目突帯文土器。

石製品 (PL.53,54)

各遺構から土器類とともに石製品も少量ではあるが出土している。

1、4は磨り石。2、5、14は石斧類。3、7、10、11、13、15は石鎌類。6、9、12は砥石。8は石包丁。

Tab.5 横寺遺跡7区～12区 出土石器一覧表

遺物番号	種類	出土遺構	法量 (cm・g)				備考
			長さ	幅	厚さ	重量	
1	磨り石	SK-706	※5.5	5.4	4.3	226.9	
2	石斧	SD-715	12.5	5.3	3.8	485.9	
3	石鎌	SD-714	※2.2	※1.8	0.5	1.7	サヌカイト
4	磨り石	SD-714	8.1	4.9	4.0	162.7	
5	石斧	遺構外	8.9	5.0	1.8	163.1	
6	砥石	SH-901	※5.9	4.0	2.9	130.3	
7	石鎌	SH-902	1.8	※1.3	0.3	0.8	黒曜石
8	石包丁	SK-1015	※9.3	5.0	0.7	53.9	
9	砥石	SH-1001	7.8	2.5	※1.8	36.3	
10	石鎌	SH-1003	2.2	0.9	0.5	0.7	黒曜石
11	石鎌	SH-1003	2.9	0.8	0.3	0.8	黒曜石
12	砥石	SH-1104	※8.0	5.2	2.2	154.1	
13	石鎌	SH-1102	2.3	0.8	0.4	0.9	黒曜石
14	石斧？	SX-1118	※6.3	3.8	1.9	77.9	
15	石鎌	SK-1205	2.3	1.5	0.3	0.5	黒曜石

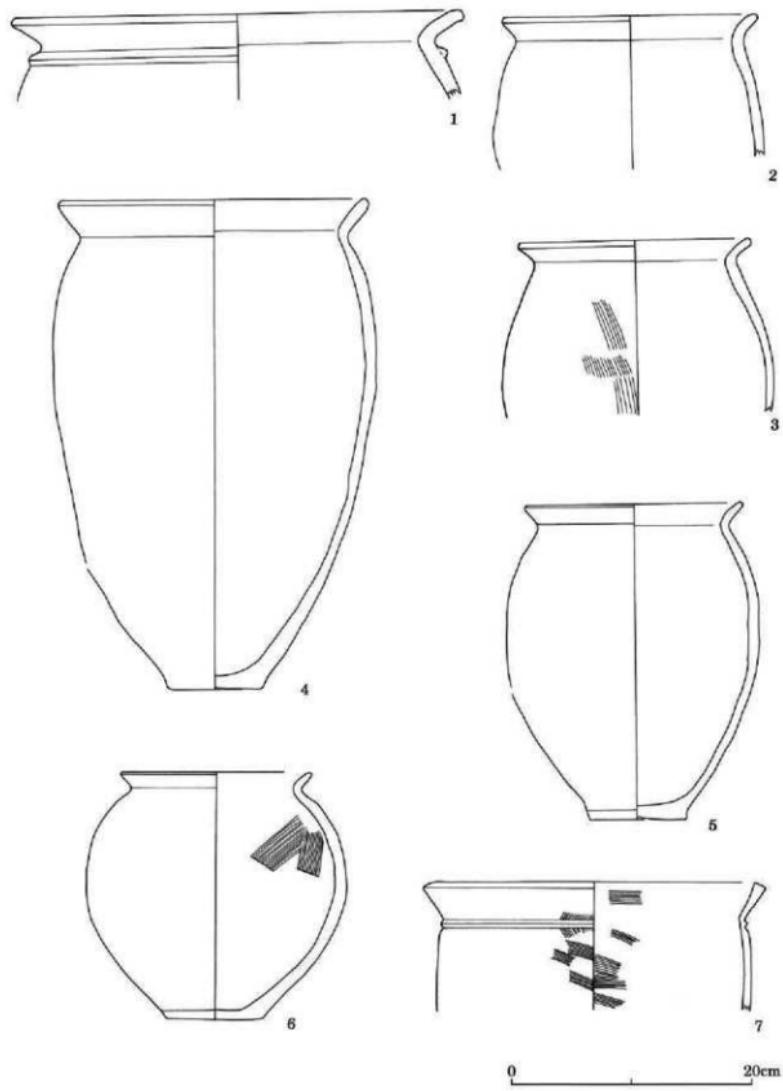


Fig.46 梶寺遺跡7区～12区 出土遺物実測図(1)

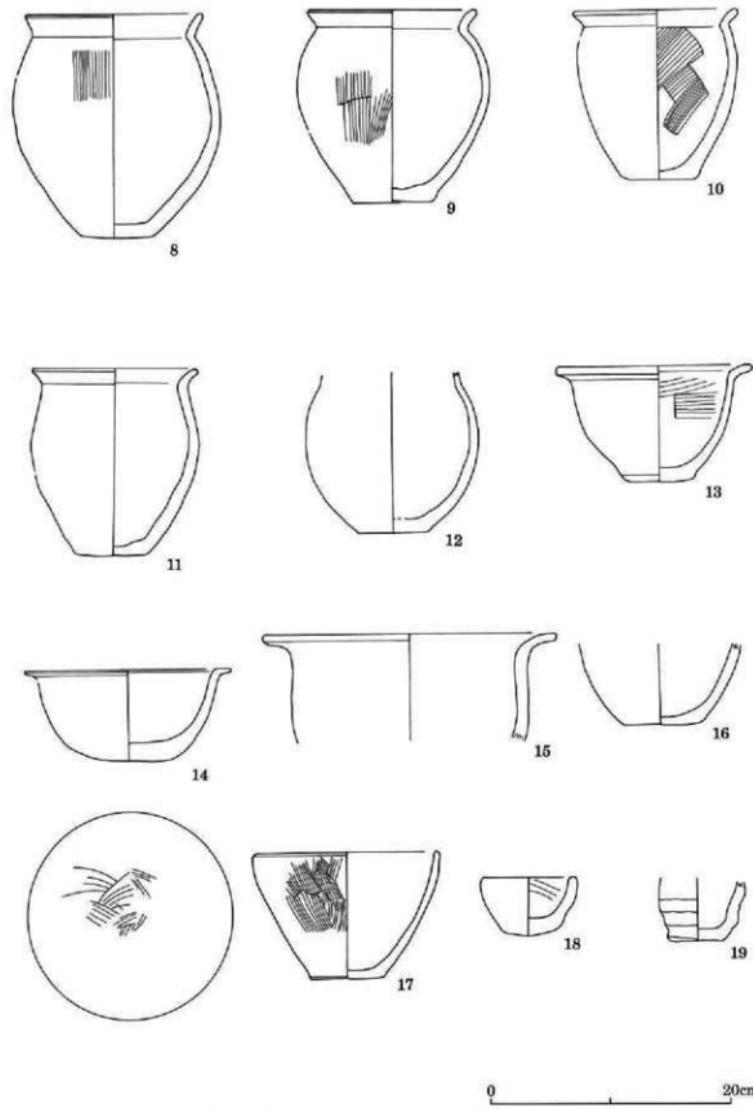


Fig.47 横寺遺跡7区～12区 出土遺物実測図（2）

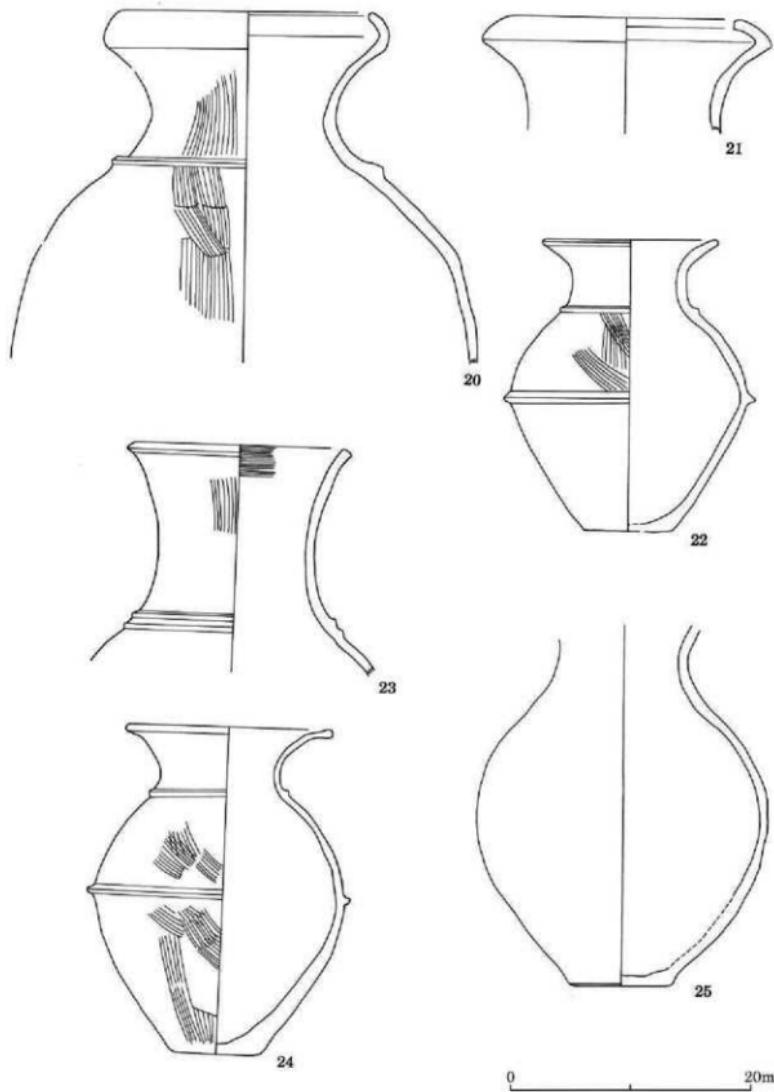


Fig.48 楠寺遺跡7区～12区 出土遺物実測図(3)



Fig.49 楞寺遺跡 7 区～12 区 出土遺物実測図 (4)

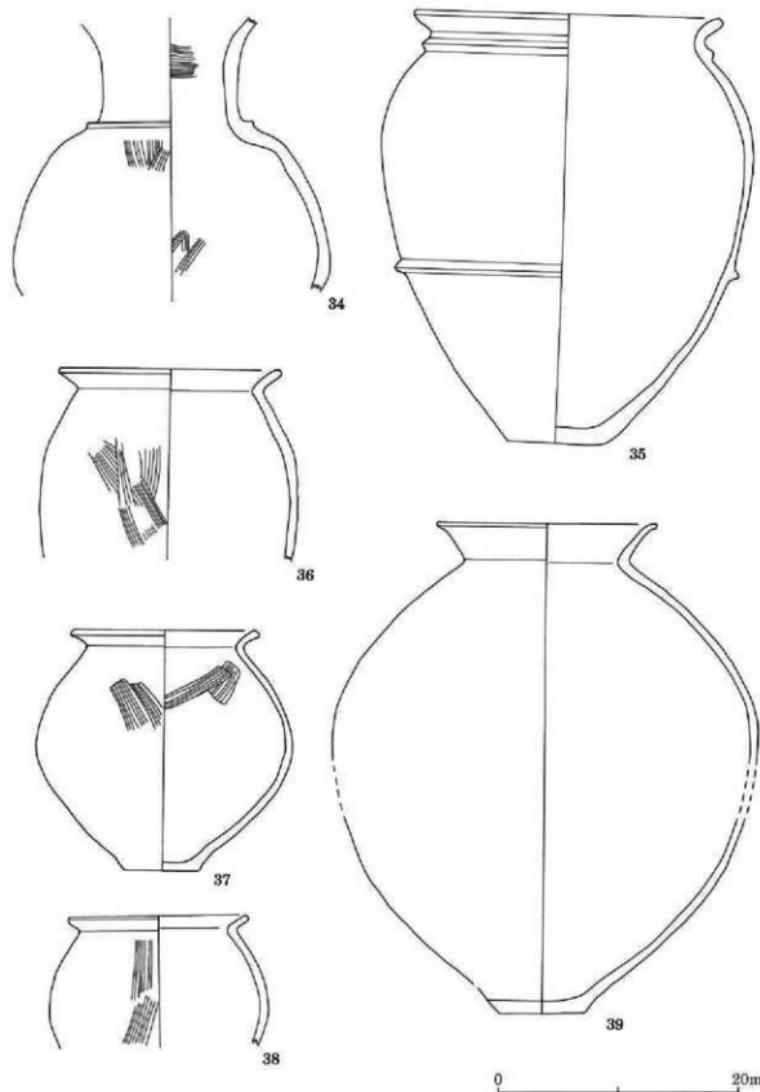


Fig.50 横寺遺跡7区～12区 出土遺物実測図(5)

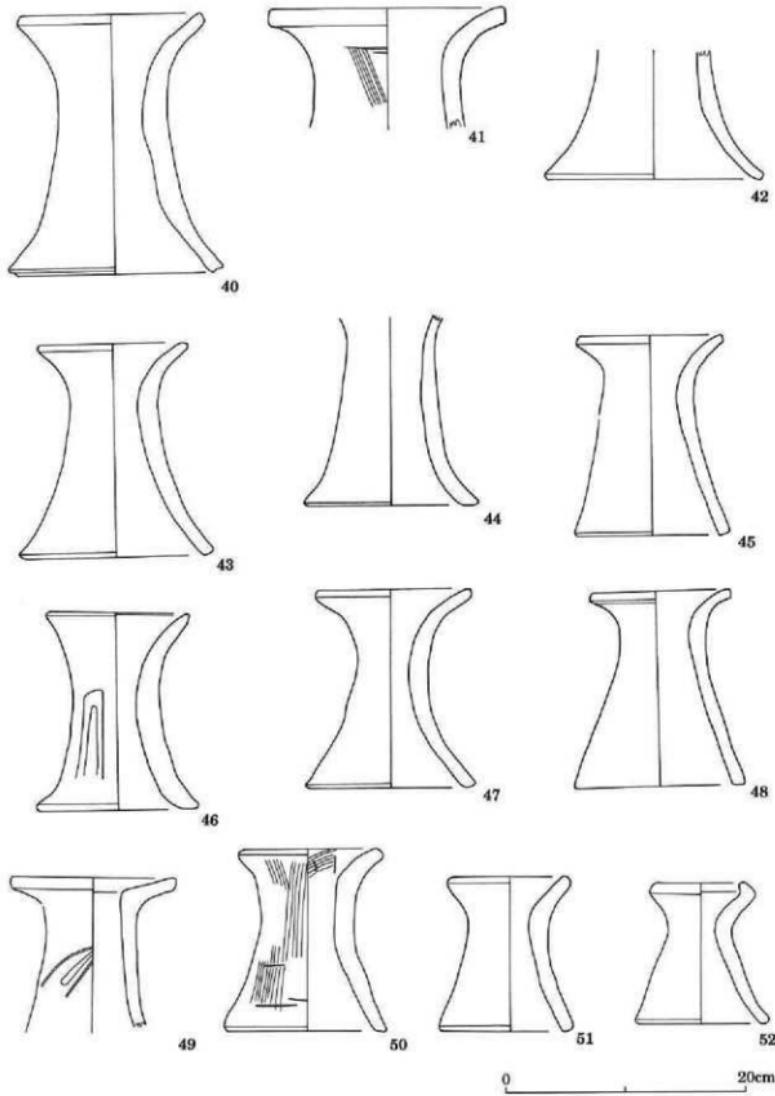


Fig.51 榛寺遺跡7区～12区 出土遺物実測図(6)

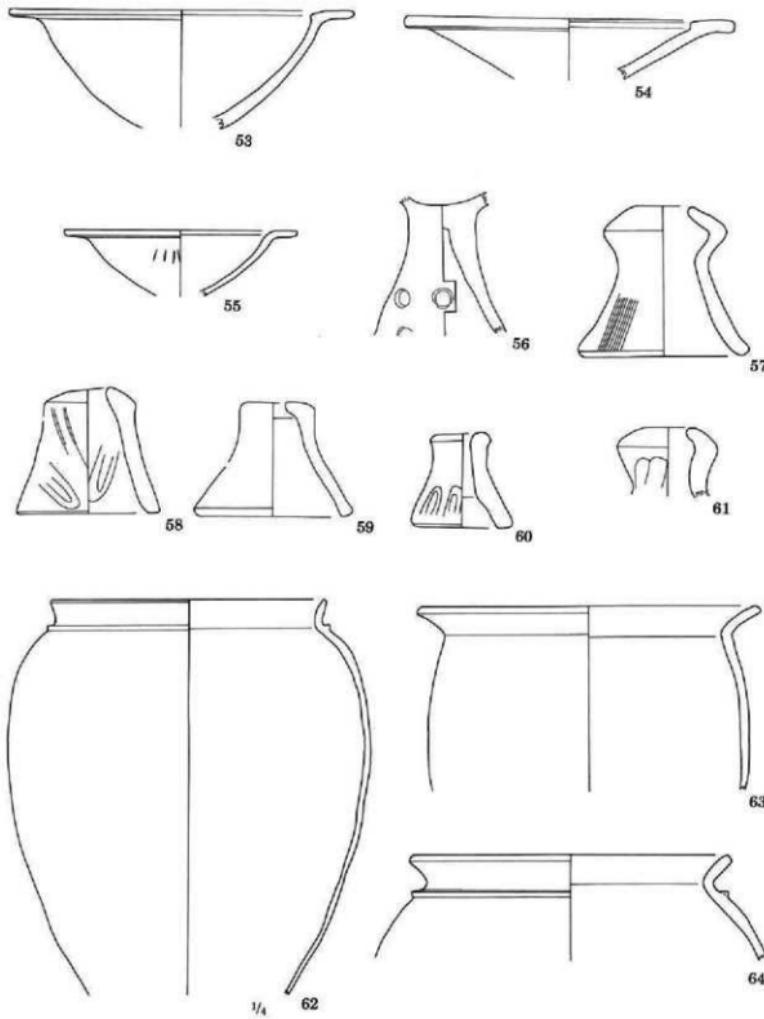


Fig.52 墨寺遺跡7区～12区 出土遺物実測図(7)

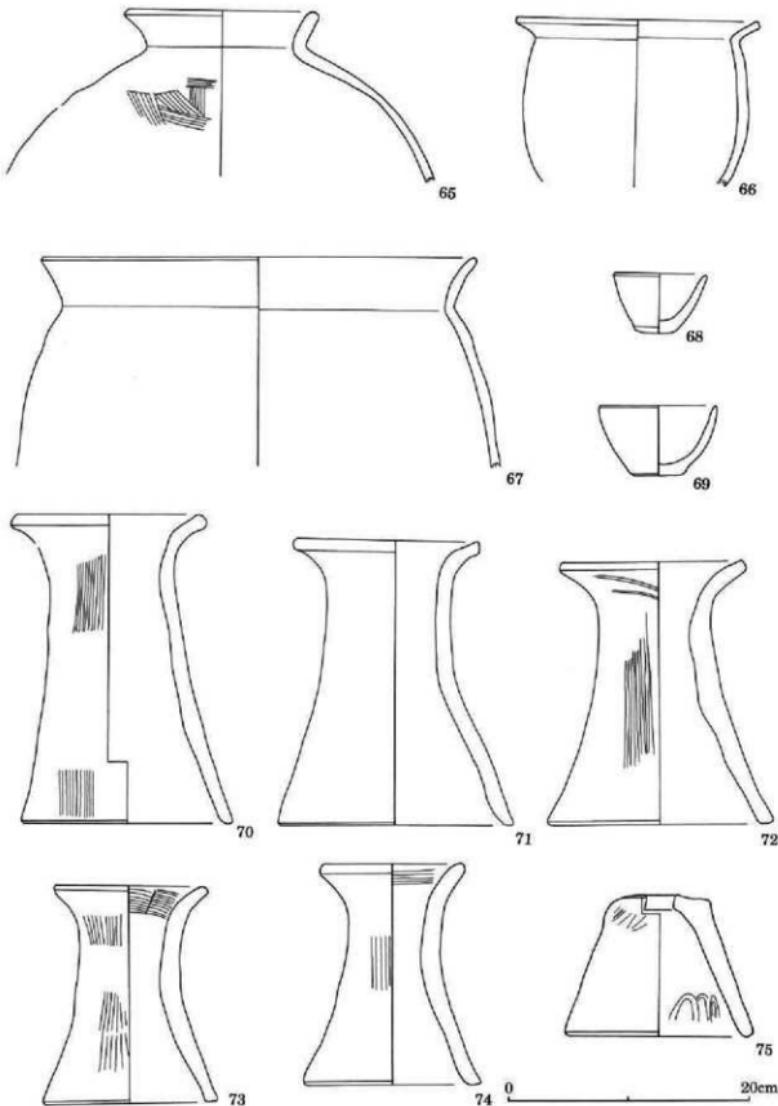


Fig.53 指定遺跡 7 区～12 区 出土遺物実測図 (8)

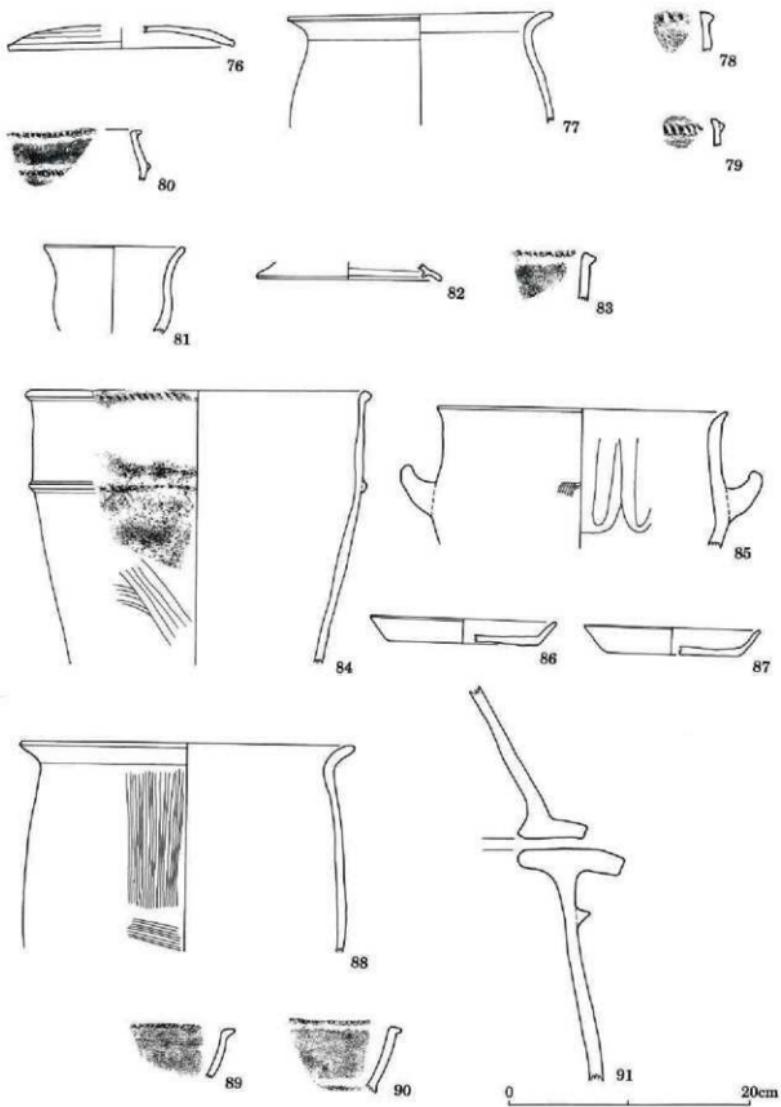


Fig.54 梨寺遺跡 7 区～12 区 出土遺物実測図 (9)

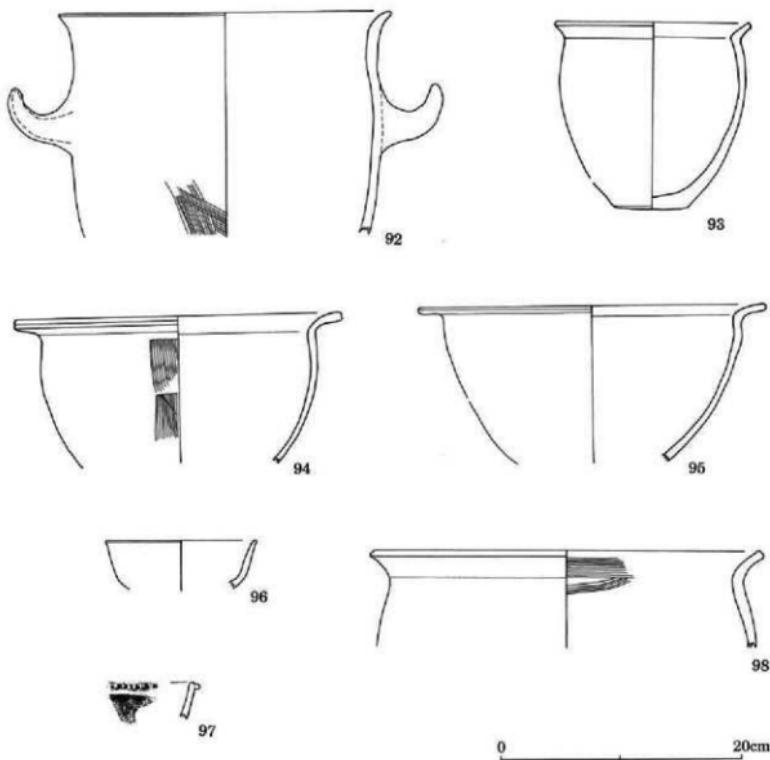


Fig.55 楠寺遺跡7区～12区 出土遺物実測図(10)

## 5.まとめ

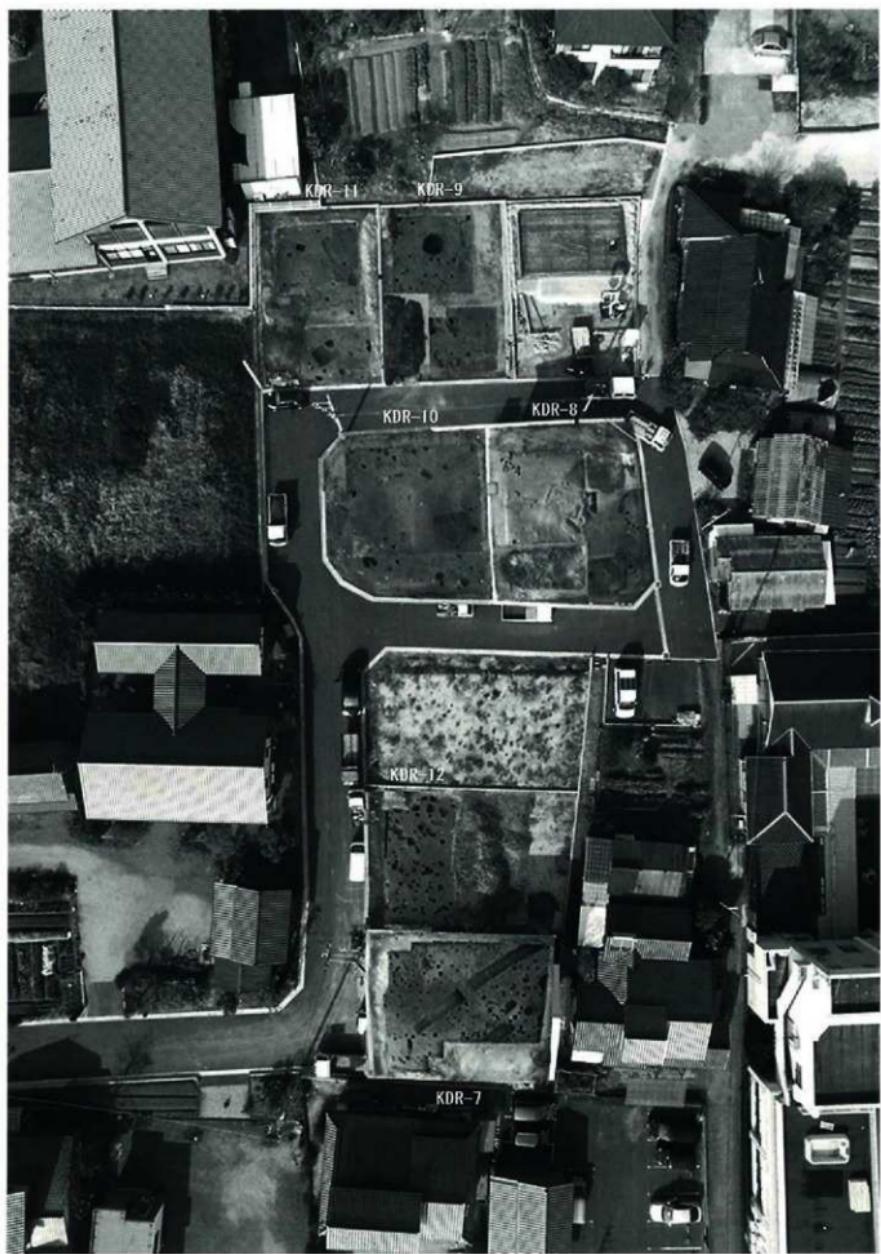
平成29年度の櫻寺遺跡7区～12区の調査で検出された遺構は、弥生時代前半から後期および奈良時代に及ぶ堅穴式住居址16軒、土壙等76基、溝跡6条、甕棺墓1基などであった。以下、調査の所見を簡単に記し、まとめとしたい。

### 溝跡SD-714、SD-715・SD-716について

今回の調査で検出された弥生時代後期前半の溝跡SD-714、SD-715・SD-716は、2条の溝が平行して走る溝跡で、加えて、確認された部分でいわゆる「喧嘩い」の状況を呈していた。このようなことからこの2条の溝跡は2条1組で機能していたものと考えられ、この時期の坊所丘陵上の弥生集落を区画していた「渠源」の一部であり、出入り口であった可能性が高い。

今回約15mの延長が確認されたが、坊所丘陵全体では一部にしか過ぎず、この溝跡がここから東西へどのように伸びていくのかは不明であるが、この問題については今後の近隣地区での調査を待ちたい。

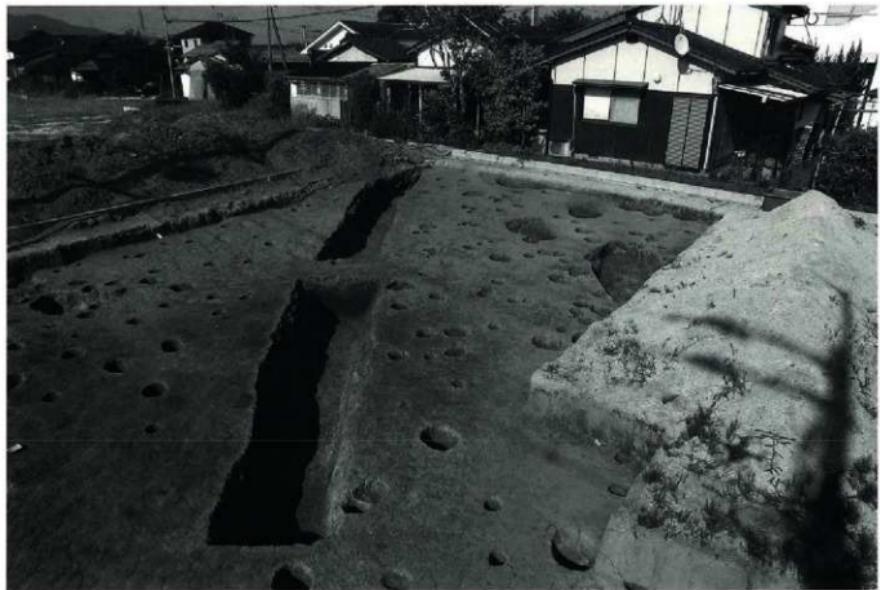
今回の7～12区の調査の結果、遺跡が立地する坊所丘陵一帯には、弥生時代以降の各時期の遺構がかなりの密度で遺存していることが改めて確認され、本区域の集落跡の時代的な変遷を考える上で貴重な資料を得ることができた。



經寺遺跡 7 区～12 区 調査地区全景



1 横寺遺跡 7区 調査区全景



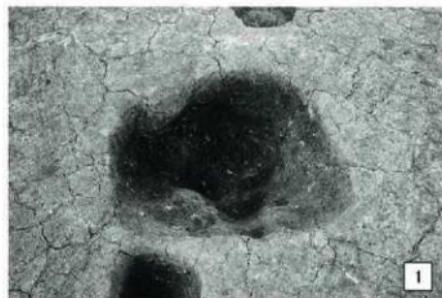
2 SD-714 · SD-715 · SD-716



1 SD-714 · SD-715 · SD-716



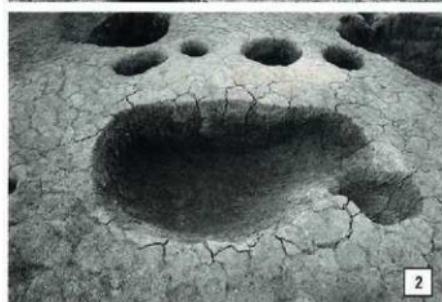
2 SD-714 遗物出土状況



1



5



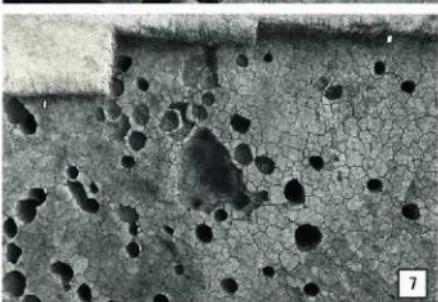
2



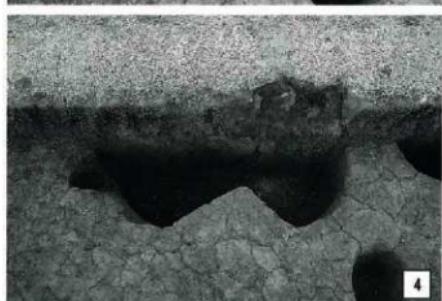
6



3



7



4



8

- 1 SK-703  
2 SK-705  
3 SK-706  
4 SK-707

- 5 SK-708  
6 SK-709-SD-716  
7 SK-710-SK-712  
8 SK-713



1 楼寺遺跡 8 区 調査区全景



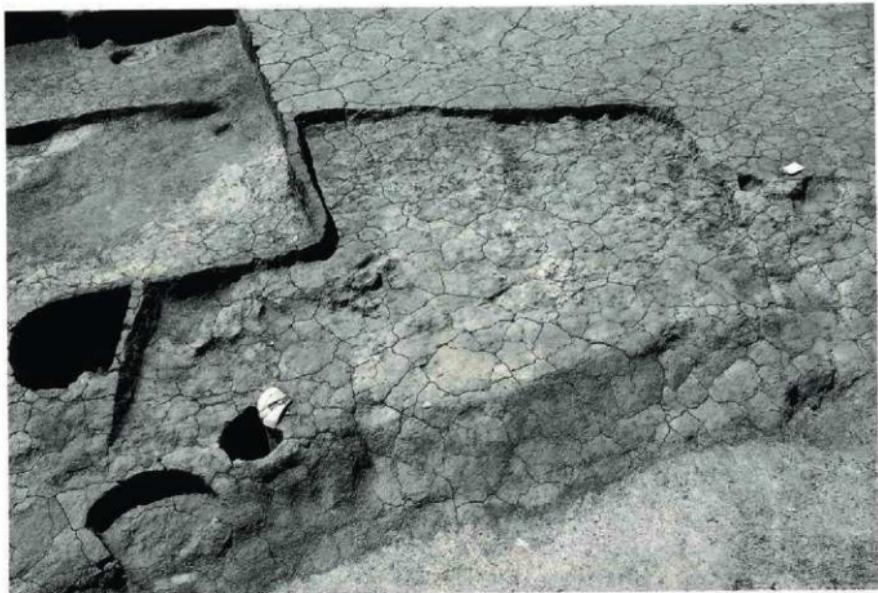
2 SH-801



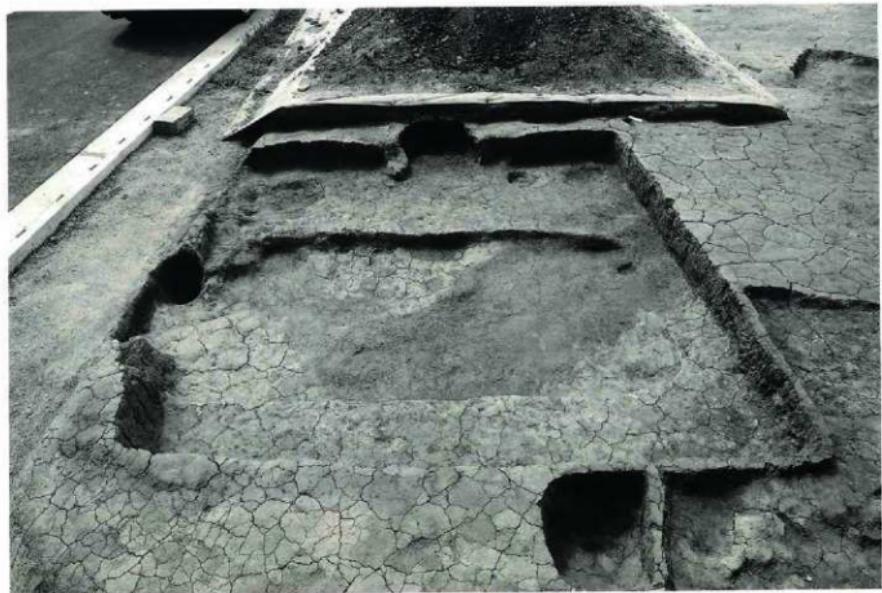
1 SH-802



2 SH-802



1 SH-804



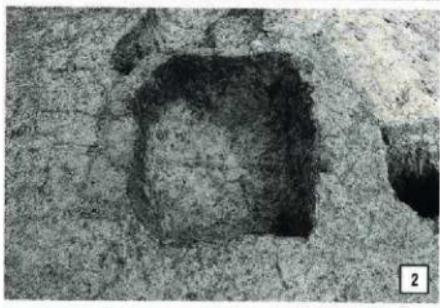
2 SH-805



1



5



2



6



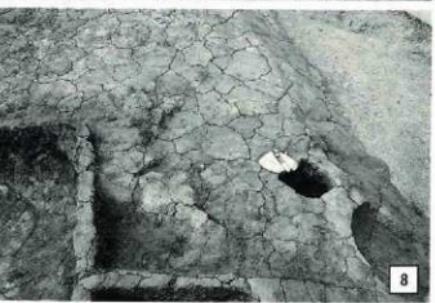
3



7



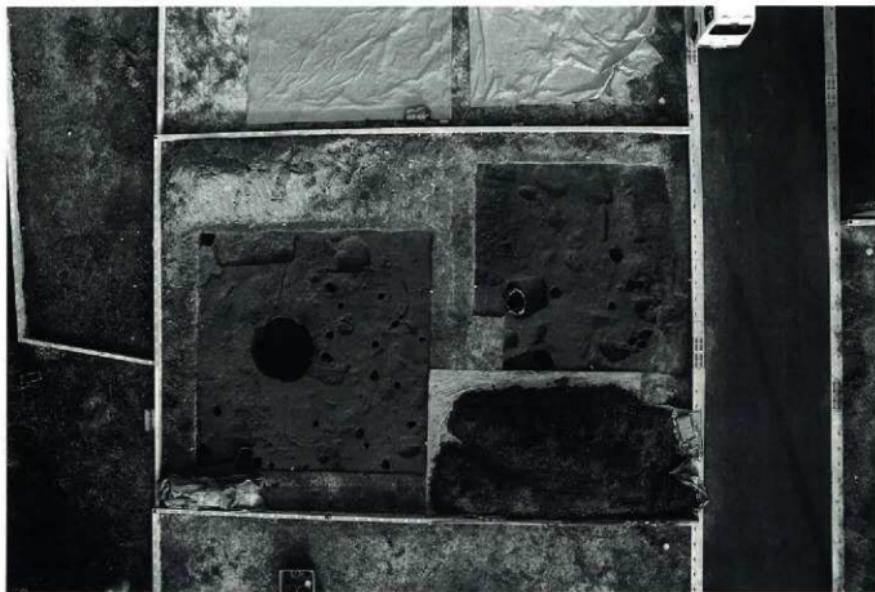
4



8

1 SH-805 電  
 2 SK-806  
 3 SK-806·SD-815  
 4 SK-807·SK-808

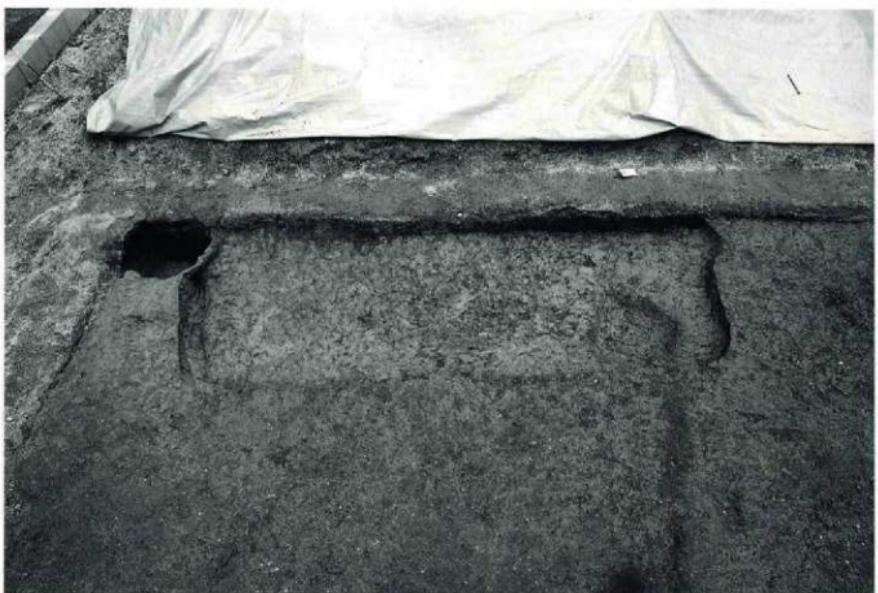
5 SK-809  
 6 SK-807~SK812  
 7 SK-812  
 8 SK-813



1 楼寺遺跡 9 区 調査区全景



2 SJ-912



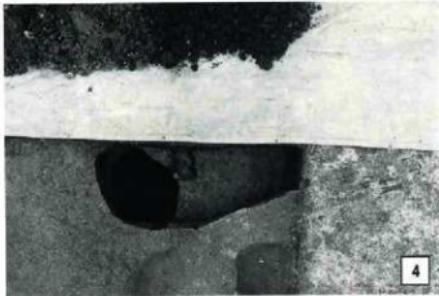
1 SH-901



2 SH-902



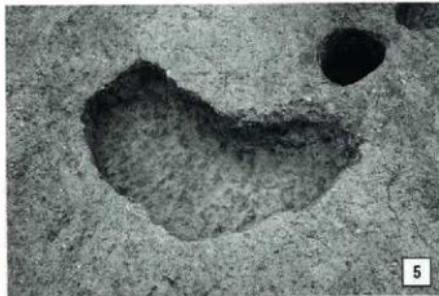
1



4



2



5



3



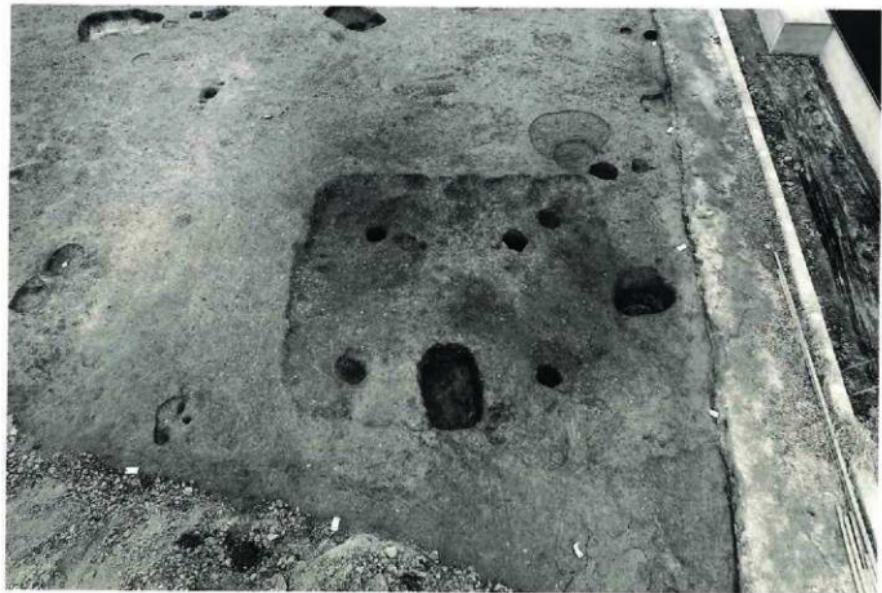
6

1 SK-903  
2 SK-904  
3 SK-905

4 SK-909  
5 SK-910  
6 SX-911



1 横寺遺跡 10 区 調査区全景



2 SH-1001・SK-1017・SK-1018



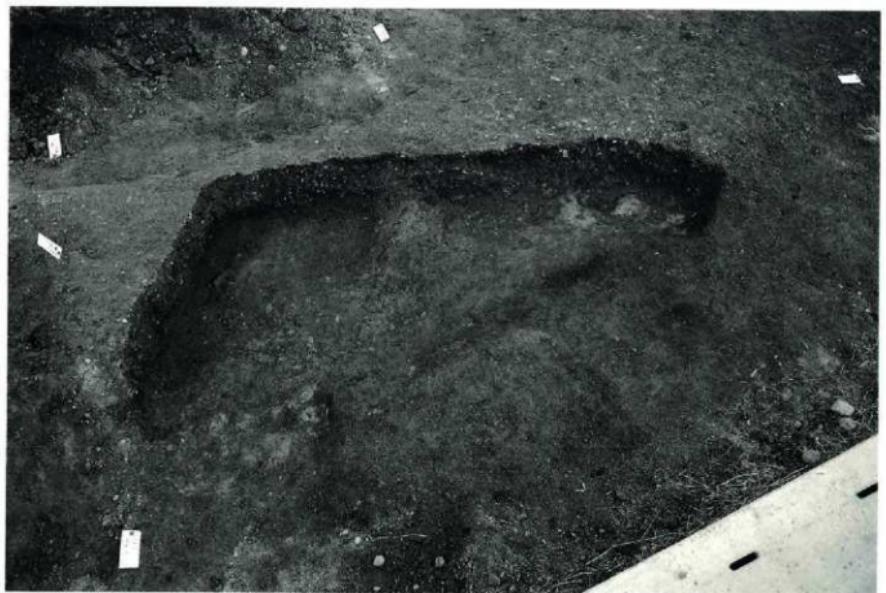
1 SH-1002



2 SH-1003



1 SH-1004



2 SH-1005



1



5



2



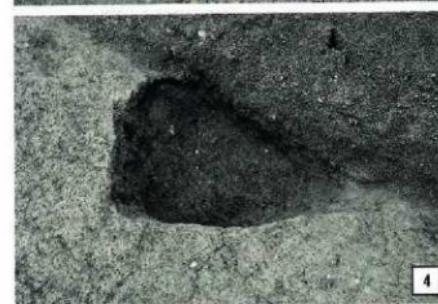
6



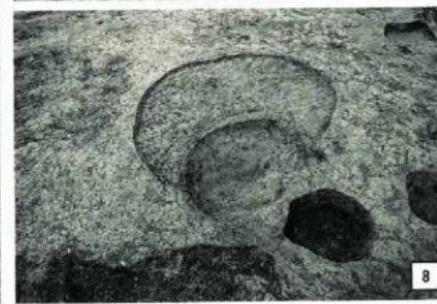
3



7



4



8

- 1 SK-1006-SD-1025  
2 SK-1007  
3 SK-1008  
4 SK-1009

- 5 SK-1010-SK-1011  
6 SK-1014  
7 SK-1015  
8 SK-1016



1



3



2



4

1 SK-1017

2 SK-1021

3 SK-1022

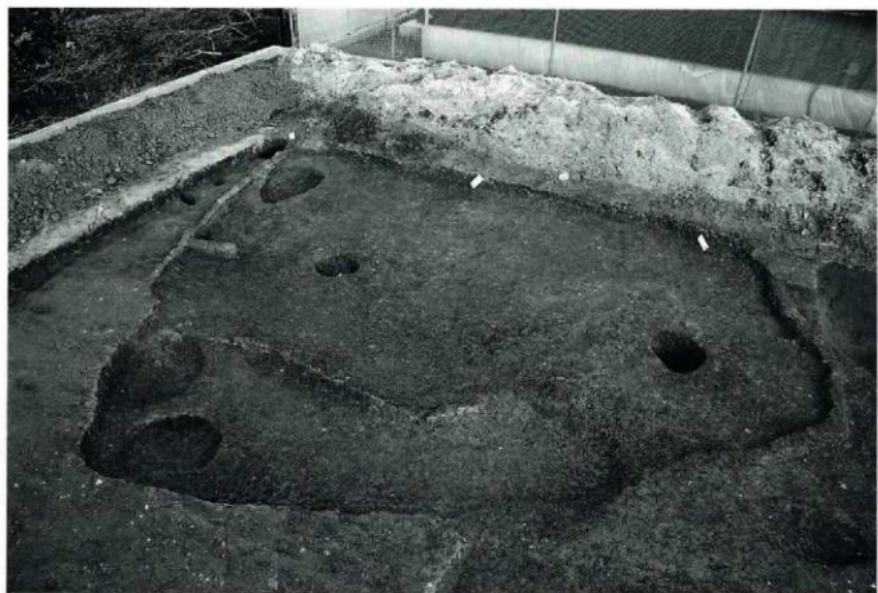
4 SK-1024



1 梵寺遺跡 11 区 調査区全景



2 SH-1101-SK-1106



1 SH-1102-SK-1107



2 SH-1102-SH-1103-SK-1107-SK-1108-SK-1111



1 SH-1103



2 SH-1104·SH-1105·SK-1116·SK-1117



1



5



2



6



3



7



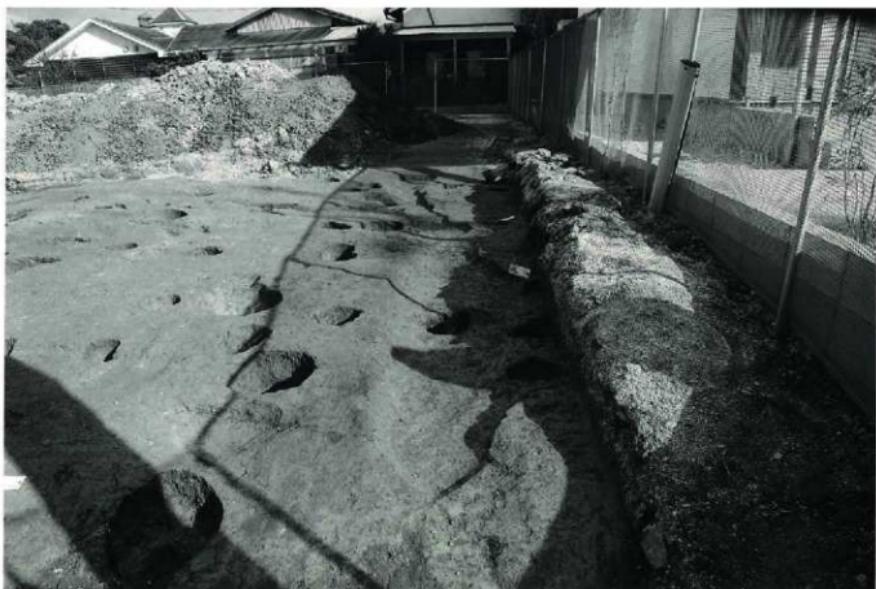
4

1 SH-1102 魚  
2 SK-1108  
3 SK-1109  
4 SK-1111

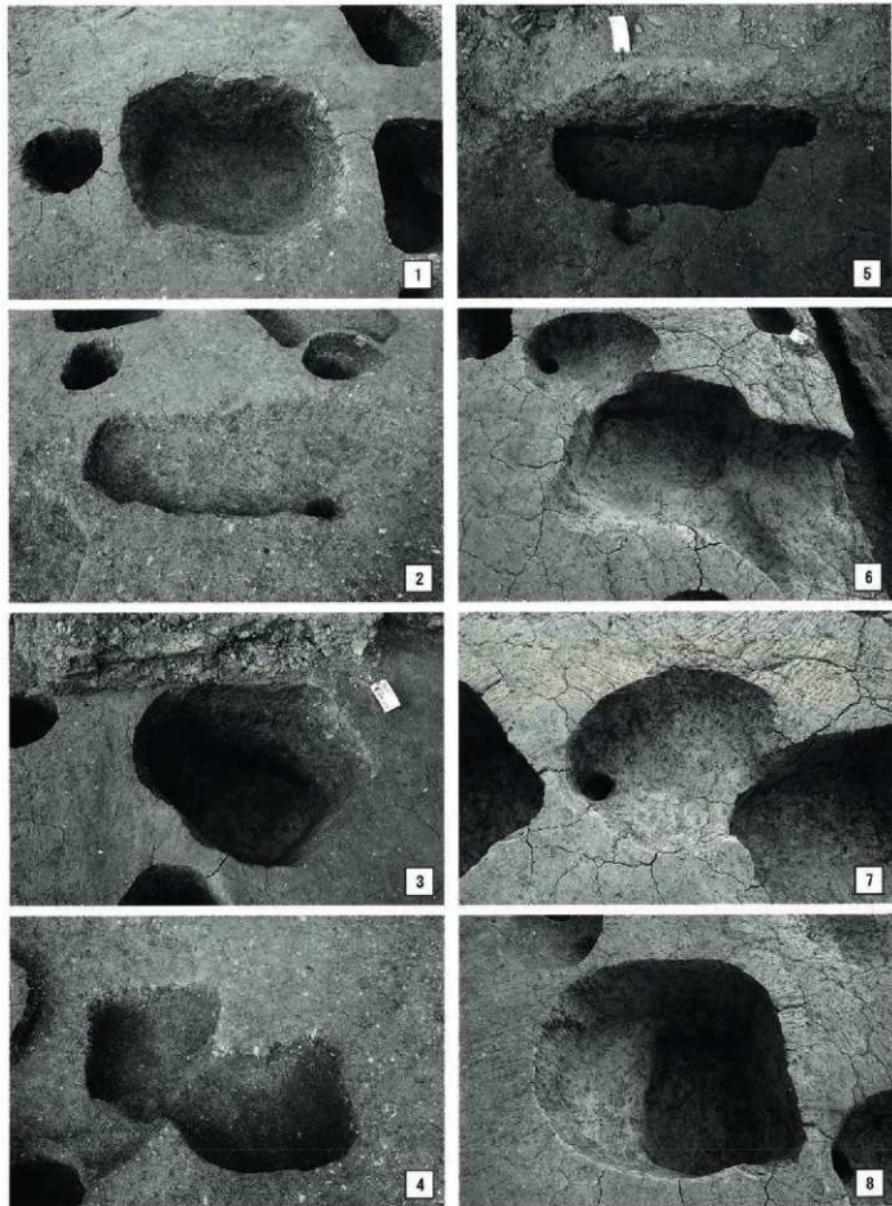
5 SK-1115  
6 SK-1117  
7 SX-1118-SK-1115



1 楼寺遺跡 12 区 調査区全景



2 SD-1213



1 SK-1201

2 SK-1202

3 SK-1203

4 SK-1205

5 SK-1206

6 SK-1207B

7 SK-1208

8 SK-1209



1



5



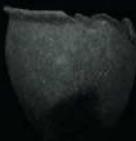
2



6



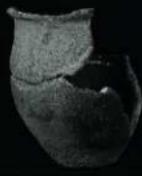
3



7



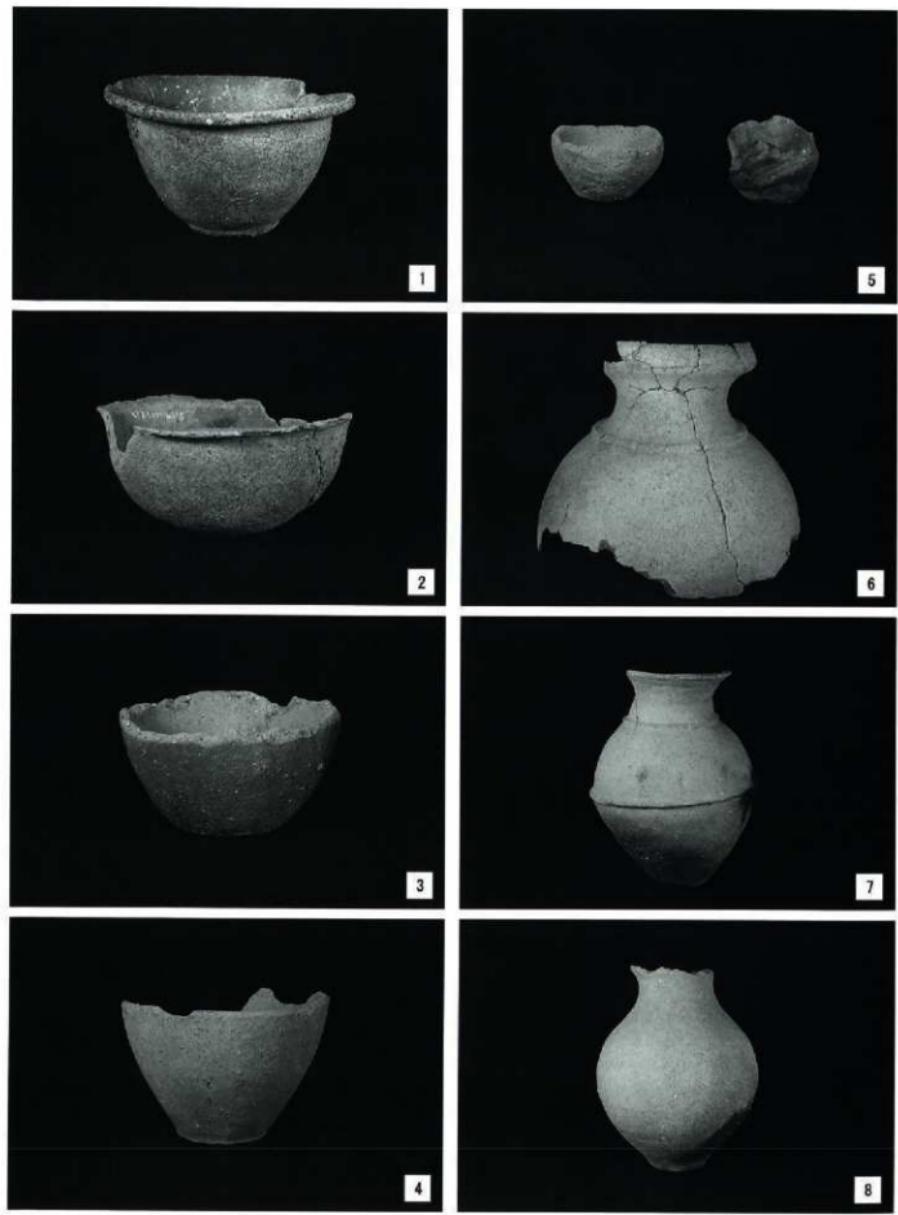
4



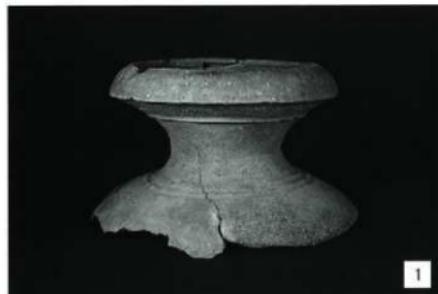
8

1 1  
2 2  
3 5  
4 7

5 8  
6 9  
7 10  
8 11



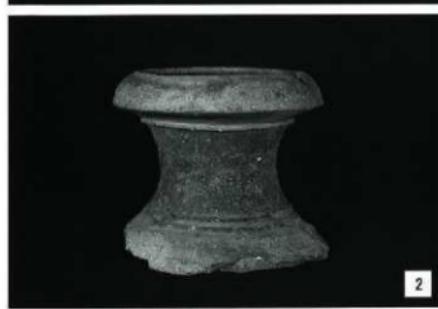
1	13	5	18·19
2	14	6	20
3	16	7	24
4	17	8	25



1



5



2



6



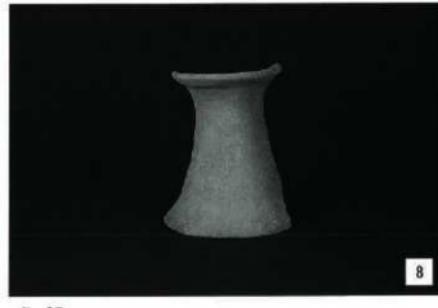
3



7



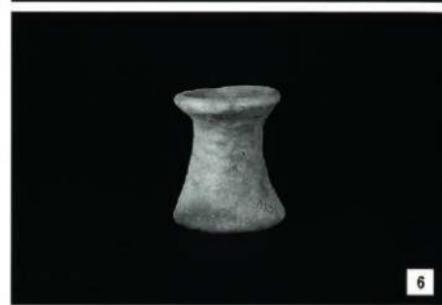
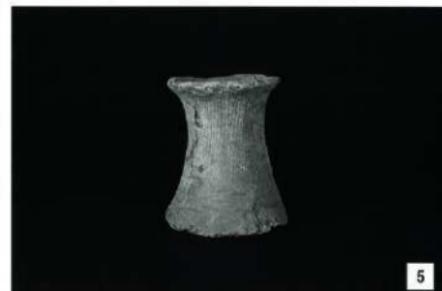
4



8

1 26  
2 29  
3 34  
4 36

5 37  
6 38  
7 40  
8 43



1 45  
2 46  
3 47  
4 48

5 50  
6 51  
7 52  
8 56



1



5



2



6



3



7



4



8

1 57  
2 58  
3 59  
4 60

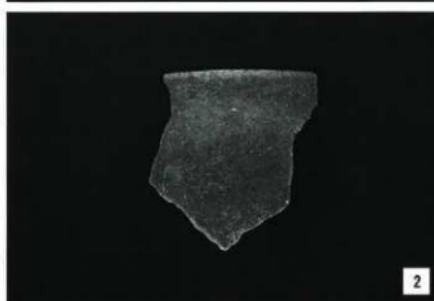
5 62  
6 63  
7 64  
8 65



1



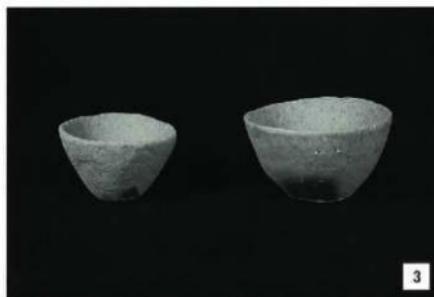
5



2



6



3



7



4



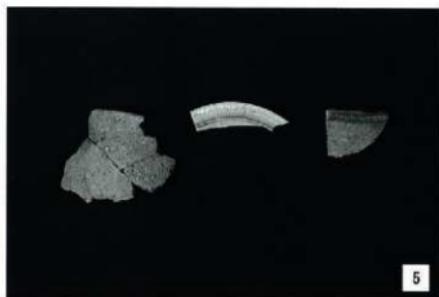
8

1 66  
2 67  
3 68-69  
4 70

5 71  
6 72  
7 73  
8 74



1



5



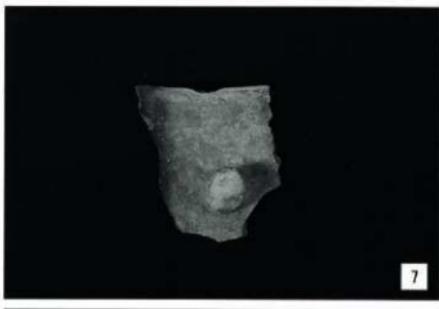
2



6



3



7



4



8

1 75  
2 76  
3 77  
4 78-79-80

5 81-82-83  
6 84  
7 85  
8 86



1



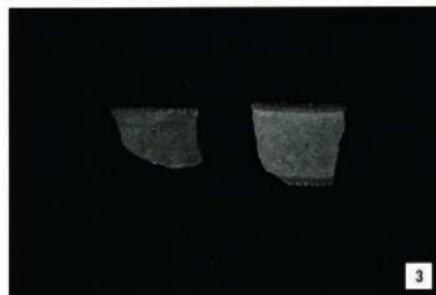
5



2



6



3



7



4



8

1 87  
2 88  
3 89-90  
4 91

5 92  
6 93  
7 97  
8 石製品 1-4



1



3



2



4

1 席製品 2·5·14  
2 石製品 3·7·10·11·13·15

3 石製品 6·9·12  
4 石製品 8

## 報告書抄録

ふりがな	かみみねちょうないいせきかくにんちょうさX							
書名	上峰町内遺跡確認調査X							
副書名	上峰町内における開発行為に伴う埋蔵文化財確認調査報告書 ——平成29年度——							
巻次								
シリーズ名	上峰町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第47集							
編著者名	原田 大介、伊達 有彩、松本 周作							
編集機関	上峰町教育委員会							
所在地	佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4 上峰町民センター内 Tel 0952-52-3833/Fax 0952-52-3888							
発行年月日	2019年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積m <sup>2</sup>	調査原因
上峰町内遺跡	佐賀県三養基郡 上峰町一円	市町村	遺跡番号	北緯 ○○○○.○○	東経 ○○○○.○○	2017.4. ～ 2018.3		町内における各種開発行為
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
町内遺跡	古墳 集落跡 城館跡	弥生 古墳 奈良 平安 中世 近世 近代	住居址・窓棺墓・ピット・溝跡・土壤等		弥生式土器・須恵器・土師器・中世陶磁器・中世土器・近世陶磁器・近代陶磁器・石製品			
歴寺遺跡 7区～12区	集落跡	弥生 奈良	住居址・窓棺墓・ピット・溝跡・土壤・井戸跡等		弥生式土器・須恵器・土師器・石製品			

上峰町文化財調査報告書第47集  
**上峰町内遺跡確認調査X**

平成31年 3月25日 印刷

平成31年 3月29日 発行

編集 発行	上峰町教育委員会 佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4
印刷	大同印刷株式会社 佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20



